

八戸市新美術館中期運営計画の概要について

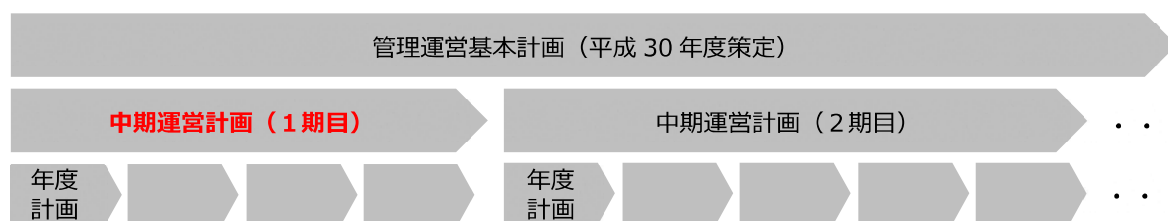
1. 中期運営計画策定の趣旨

「八戸市新美術館整備基本構想（平成 28 年度策定）」及び、「八戸市新美術館管理運営基本計画（平成 30 年度策定）」を基礎とし、新美術館での事業展開や運営のあり方について、開館から 3 年間程度の目標と重点的に取り組む事業を定めるもの。

2. 中期運営計画の特徴

最終的な目標や生み出したい成果に向けて美術館と市民が共創しながらプロジェクトを進める中で、新しく生まれたアイデアや企画を取り入れたり、当初目指していたプロジェクトの方向性の変化にも柔軟に対応できる内容とした。

3. 計画推進イメージ



4. 計画期間

令和2年度～令和6年度
~~令和2年度～令和5年度~~

5. 今期の戦略目標及びミッション

（1）戦略目標

「アートของ学び」を提供する八戸ならではの美術館としてのアイデンティティ確立と地域の牽引

新美術館の特徴である「アートของ学び」の提供に注力し、八戸ならではの美術館としての個性を際立たせ、市内外で認知度を高めるとともに、当市の芸術文化の中心的施設としての運営を図る。

（2）ミッション

- ① アートを通じた学びの拠点をつくる
- ② 新しい活動や価値が生まれる土壌をつくる
- ③ クリエイティブ人材が集まる環境をつくる

6. 重点取組事項

（1）独自の事業モデル構築と実践

設定した事業テーマのもとで様々な企画をつくり、複数企画の集合体として新美術館の事業を構成することで、企画の内容だけではなく、構成そのものも面白いと感じられる事業を実施する。

<事業テーマ>

①地域に学ぶ・地域を学ぶ

地域に関する様々なテーマを美術館スタッフや市民、アーティスト等と一緒に学び、深掘りし、ローカルな視点や活動から世界につながる普遍的な美を見出す。

八戸の美を探る	三社大祭の山車創造の視点からアートの方脈で八戸ならではの美に迫る
民俗信仰・祈り	八戸地域に伝わる民俗信仰・祈りにまつわる造形美に迫る
地域ゆかりの作家や作品	地域ゆかりの作家に関する企画制作や、収蔵作品の大胆な活用等を図る
教育版画	教育版画を起点に、これからのアートの学びにつなぐ企画を実施する
写真のまち八戸	写真家の目を通して八戸のまちを捉え直す取組を展開する
その他	市民参加による地域リサーチから生まれた企画を実施する

②共創パートナーと新しい企画をつくる

市民と美術館による新たな共創の試みとして公募展の実施や、市内の美術団体・関係団体などの共創パートナーが主催する企画と連携した事業を展開する。

③巡回展をベースとした新しい企画をつくる

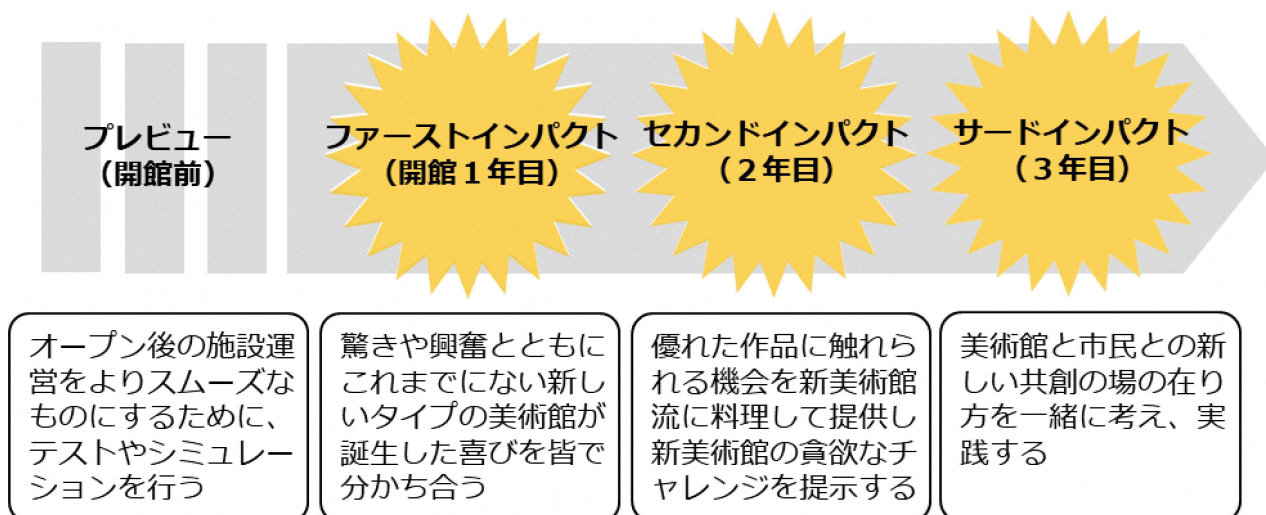
誰もが優れた作品に触れられる機会を通して、アートの本質や魅力に触れられ、感性が刺激される体験機会を提供する。

④「アートの学び」を探求する

新美術館の特徴である「アートの学び」をテーマに、これからの美術館における「学び」のあり方を明確に打ち出す。

(2) 3回のオープンで打ち出す3つのインパクト

新美術館の機能や特徴、魅力や可能性を余すところなく発信するため、グランドオープンを含めた3年間で「3回オープン」すると見立てて、「3つのインパクト」を打ち出すとともに、オープン前に助走期間（プレビュー）を設ける。



(3) アートを介した社会参画のプラットフォーム形成

アートを介して様々な立場の人々が対等な立場でつながり、対話しながら、地域の様々な課題に向き合い、地域を作り変えていける場を形成する。このため、市民が主体的に美術館運営に関わることができる「アートファーマー」という新しい仕組みを取り入れる。

(4) 小中高校連携

全国の効果的な美術教育の事例などを教員や学芸員・専門家等と一緒に研究するラボを開設し、美術館と学校をつなぎ、効果的なプログラムを実践できる体制をつくる。

(5) 大学・高専連携

特徴的な活動を展開している市内の大学・高専の専門性と美術館の専門性を掛け合わせて、新しい価値や活動を生み出す「アート×○○」の新しい取組を展開する。

7. 新美術館の運営資源に関する考え方

(1) 運営体制

調査研究など継続性が求められる事業は専門チームを編成して中長期的に取り組む一方で、プロジェクト型の事業は、スタッフの個性を活かしながら臨機応変にチームを編成して取り組む。

また、よりよい美術館運営を図るため、新美術館の運営について助言を行う運営検討委員会や、美術作品等の収集に対して提言・承認を行う美術資料収集審査委員会を設置・運営する。

(2) 財務的経営と収支

別途維持管理計画を策定し、収入増や運営経費削減に努め収支バランスの向上を図るほか、事業の立ち上げ時には各種補助制度の活用を見込みながらも将来的には国等の補助制度に依存しない自立に向けて、一部事業を創造的な収益事業へ発展させるなどの方策も検討する。

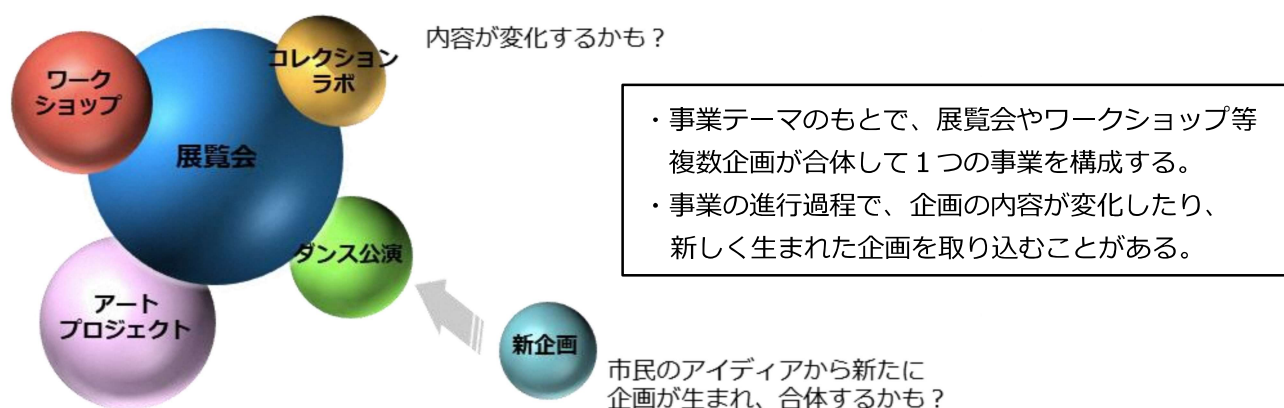
(3) 施設管理

新美術館にふさわしい備品や設えを整備し、適切な保守点検・維持管理を行うとともに、ソフト・ハードの両面において利用状況など実情に合わせて柔軟な対応を図る。

8. 評価指標の設定及び事業評価の手法

新美術館の目標達成に向けて、どれだけの人員と予算を投資して、どのような事業を行い、どのような成果を生み出せたのかという関係性を明確にしながら、利用者数やプログラム実施数などの数値で表しやすい評価指標と、事業に参加した人の変化や新たに生み出されたものなどの数値で表しにくい事柄の評価指標を用いて、美術館全体の評価を行う。

<参考> 新美術館の事業モデル図



【5】新美術館の運営資源に関する考え方

新美術館の運営にあたっては、限られた予算やマンパワーを事業に効果的に配分・投資し、戦略目標やミッションの達成に向けて最大限に効果を挙げることが求められます。このため、新美術館の運営資源については、以下の考え方に基づき、運用します。

1. 運営体制

新美術館は、旧美術館から機能が大幅に拡張されることから、これに相応しい運営体制が求められますが、スタッフの増員や新美術館の運営に必要な専門性を有する人材の登用など、市全体としての組織の見直しと併せて、運営組織体制づくりを段階的に進めます。

併せて、急激な社会変化に合わせた事業や、従来の美術館の範疇を超えた分野と連携した取組などを行うためには、スタッフには教育や福祉、経済など様々な分野に渡る幅広い知見や、共創パートナーと協働するためのコミュニケーション力や調整力などが求められます。このため、スタッフが常に新しいスキルや知識を習得できるよう、研究や研修のための時間や予算を確保し、新しい美術館の運営に対応していきます。

また、調査研究など継続性が求められる事業は専門チームを編成して中長期的な視点で取り組む一方で、プロジェクトベースの事業は実施体制の縦割化を回避するため、スタッフの個性を活かしながら事業目的に応じたフレキシブルなチーム編成を行います。

さらに、新美術館の運営に対して助言を行う運営検討委員会や、美術作品及び関連資料の収集に対し提言・承認を行う美術資料収集審査委員会を設置するなど、よりよい美術館運営を維持できる仕組みを整備します。

2. 財務的経営と収支

新美術館の運営経費については、展覧会観覧料や収益事業をはじめとする事業収入や施設利用の促進による施設利用収入の安定化など、収入増に努めるとともに、恒常的に業務の合理性を追求し、運営経費の削減に努め、収支バランスの向上を図ります。これを実現するため、中期運営計画とは別に維持管理計画を策定します。

また、美術館が実施する事業は、八戸の未来を形作るための投資としての観点から、美術館が行うべき事業に対し十分な予算を確保できるよう努めます。このため、立ち上げ時には各種補助制度の活用を見込みながらも、将来的には国等の補助制度に依存しない自立に向けて、一部事業を創造的な収益事業として発展させる方策も検討します。

さらに、美術館事業に対する賛同者を増やし、寄附金による資金調達を図ります。

3. 施設管理

来館者が快適に過ごせる環境を提供すると共に、多種多様な活動に対応できるよう、新美術館にふさわしい備品や設えを整備し、適切な保守点検・維持管理を行います。

また、受付（インフォメーションスタッフ）や監視員の配置など、美術館運営に必要な不可欠な人員配置やサービスの提供を行うことで、多くの人々に親しまれる環境づくりを行います。

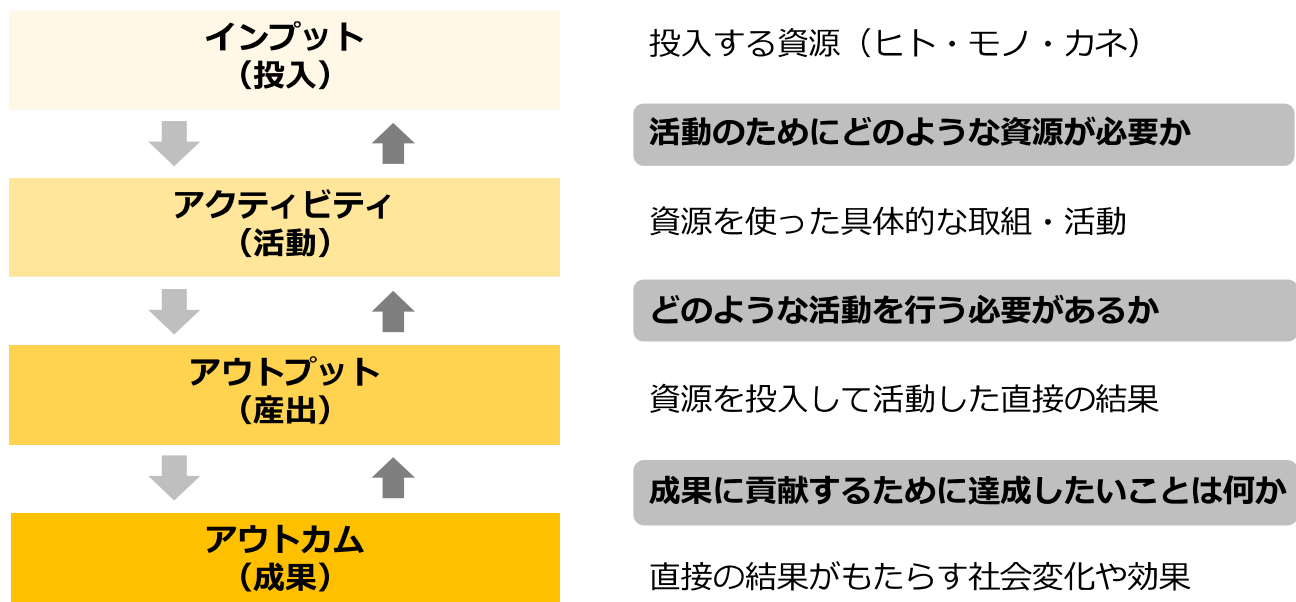
さらに、開館後の事業展開や施設運営を行いながら、使い勝手や仕組みに関する市民やスタッフの意見をもとに、ソフト・ハードの両面において、実情に合わせて柔軟な対応を図ります。このことにより、常に利用しやすく、市民や地域とともに歩むことのできる美術館としていきます。

【6】評価指標の設定及び事業評価の手法

新美術館の事業評価にあたっては、単に入館者数や収支バランスの向上といった画一的な基準を美術館の評価指標とするのではなく、市民や地域の方々にアートを通してどのような機会を提供できたのか、地域に対してどのような価値を創出することができたのかなど、美術館が事業を通して地域において果たすべき役割をどの程度達成できたかで評価する必要があります。このため、新美術館が果たすべき最終目標達成に向けて、どれだけの人員と予算を投資して（インプット）、どのような事業を行い（アクティビティ）、どのような成果を生み出したのか（アウトプット・アウトカム）という関係性を明確に示しながら、事業評価を行うこととします。

1. 評価指標

新美術館では、利用者数や参加者数など、数値として取得できるデータを日々記録・集計した、数値で表しやすい評価指標と、利用者アンケートやプロジェクトの参加者等にヒアリングを行い、経験から得たものやプロジェクト後の自身の変化などをつぶさに集めた、数値で表しにくい事柄の評価指標の2つを組み合わせ、新美術館全体の評価及び各事業の個別評価を行います。評価指標として、下記のとおり設定します。

**数値で表しやすい評価指標**

利用者数や参加者数など、数値として取得できるデータを日々記録、集計し指標のひとつとします。

【評価指標の例】

美術館全体のデータ

- ・ 利用者数
- ・ 展覧会・プログラム等実施数
- ・ 教育機関等連携数
- ・ 地域との連携数
- ・ メディア等露出回数
- ・ ウェブアクセス・SNSフォロワー数

各事業のデータ

展覧会等来場者数
各プログラム参加者数
アートファーマー参加者数
など

数値で表しにくい事柄の評価指標

利用者属性や満足度など目に見えない事柄は、利用者アンケートを通して把握し、ミッションの達成度などを測る指標のひとつとします。

【事業実施時のアンケート等による指標例】

利用者属性に関連する質問
性別・年齢・職業など
来館目的や訪問回数

ミッションに関連する質問
地域に対する新たな発見があるか
創造力を刺激されたか
学びの機会となったか

【数年間のヒアリングによる指標例】

数年後、どのような変化が生まれたか
過去経験が、どのような影響を与えたか
など

↓

アウトプット指標（毎年度）

↓

アウトカム指標（最終年度）

↓

美術館全体の評価

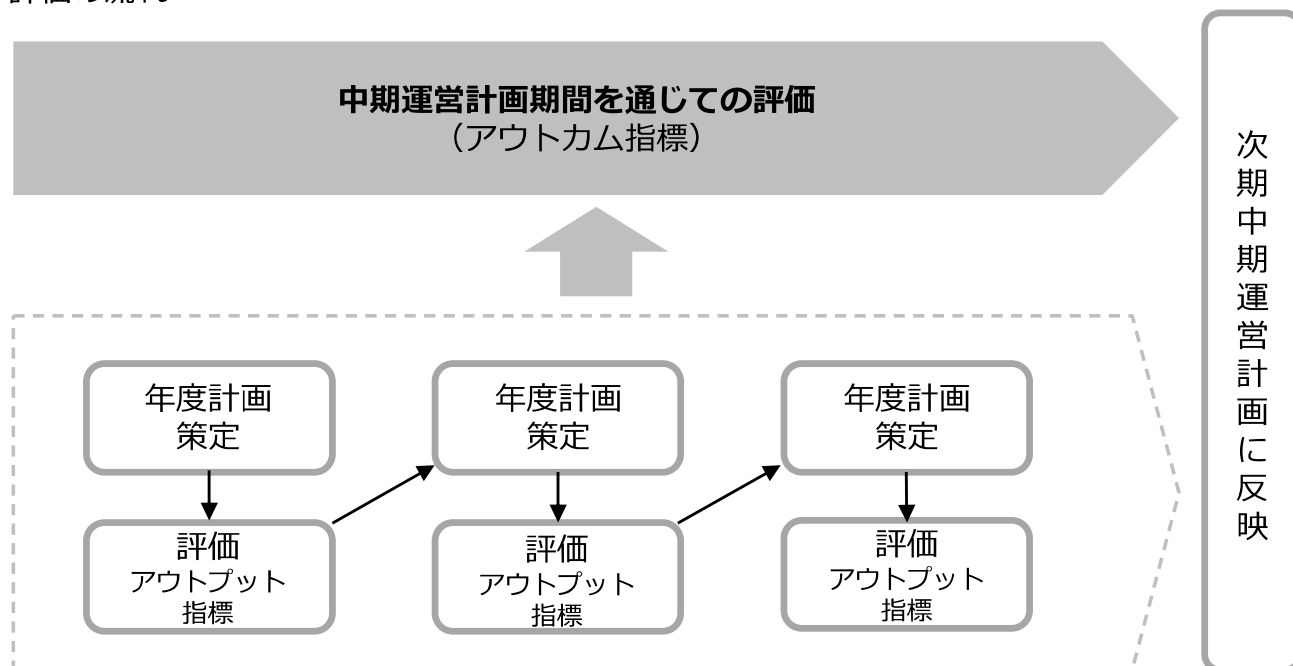
2. 事業評価体制（事業進行管理の手法）

新美術館における事業評価は、毎年実施する年度評価（短期）と、計画期間最終年度に実施する中期評価により行います。年度評価では、中期計画に記載される目標を達成するために実施すべき事業や運営を行えているか、アウトプットでの評価を行い、軌道修正が必要かなどを判断し、フレキシブルに対応していく一方で、中期評価では、計画期間内に実施した事業がどのように波及したか、アウトカムでの評価を行い、美術館全体の方向性や事業展開のあり方について検討し、次期の中期計画の策定に反映します。

年度評価及び中期評価にあたっては、有識者等から構成される運営検討委員会を開催し、専門的な視点での意見をいただき、美術館の運営及び事業に反映させます。

なお、事業評価は次の流れにて実施します。

評価の流れ



（１）年度評価の流れ（毎年）

4～6月	前年度実施事業の実績整理（各種統計収集、アンケート集計などの評価指標） 評価指標を元にした美術館内部による年度評価の作成
7～8月	運営検討委員会を開催（意見聴取及び外部評価）
9月	翌年度の年度計画策定
10月	翌年度予算の資料作成

（２）中期評価の流れ（計画期間最終年度（令和５年度））

4～6月	前年度実施事業の実績整理（各種統計収集、アンケート集計などの評価指標） 評価指標を元にした美術館内部による年度評価の作成 中期運営計画期間の事業評価の集計・とりまとめ 中期運営計画期間の評価を元にした美術館内部による中期評価の作成
7～8月	運営検討委員会を開催（意見聴取及び外部評価）
9月	次期中期計画及び翌年度の年度計画策定
10月	翌年度予算の資料作成

インプット

<運営体制>

- ・ スタッフ増員や美術館運営に必要な専門性を有する人材登用など、市全体としての組織見直しと併せて、運営組織体制づくりを段階的に進める。
- ・ 継続性が必要な事業は専門チームを組む一方で、プロジェクト型事業は事業目的に応じてフレキシブルにチームを編成する。
- ・ 運営検討委員会及び美術品等収集検討委員会の設置と運営

<財務的経営と収支>

- ・ 展覧会観覧料や収益事業をはじめとする事業収入や、施設利用の促進による施設利用収入の安定化
- ・ 寄附金による資金調達
- ・ 各種補助制度の活用
- ・ 恒常的な業務の合理性追求と運営経費の削減

<施設管理>

- ・ 来館者が快適に過ごせる環境の提供と、多種多様な活動に対応できる、新美術館にふさわしい備品や設えを整備
- ・ インフォメーションスタッフや監視員の配置など、美術館運営に必要不可欠な人員配置とサービス提供
- ・ 施設の使い勝手や仕組みに関して市民やスタッフの意見をもとに、ソフト・ハードの両面において実情に合わせて柔軟な対応を図る

アクティビティ

独自の事業モデル構築と実践

- ・ ワーク・イン・プログレス方式で事業の可変性と発展性を担保し、複層的・立体的な事業構成を図ることで、新美術館独自の事業モデルを構築・実践する

3回のオープンで打ち出す3つのインパクト+1

- ・ 新美術館の機能や特徴、魅力や可能性を余すところなく発信するため、「3回のオープン」で「3つのインパクト」を打ち出す

アートを介した社会参画のプラットフォーム形成

- ・ アートファーマーやソーシャルサロンなど、アートを介して異なる分野が出会いフラットな立場でつながり、対話し、地域を作り変えていくプラットフォームを形成する

小中高校や大学・高専との連携強化

- ・ アートの学びを重視する美術館として、小中高校や大学・高専などの教育機関との連携強化を図る

アウトプット

アートの力を体感し、創造性を喚起させる場が提供できている

- ・ 誰もが作品の魅力や内包されたエネルギーを感じられたり地域や社会に対してアートがもたらすものを実感できる

地域・社会課題に対して積極的なアプローチがなされている

- ・ 地域や社会を取り巻く課題を認識し、美術館やアートが何を成せるかを考えながら積極的にアプローチする

八戸固有の作品やコンテンツが生み出されている

- ・ 地域にゆかりのある作品の新たな価値付けと、八戸でしか創り得ない新しい作品やコンテンツを生み出す

多様な主体が参加する場が創出されている

- ・ 市民やアーティスト、スタッフ、関係機関、他館・他施設等がアートを介して参画する場を創出する

効率的で持続可能な施設運営がなされている

- ・ 運営経費の圧縮と収入増に努め効率的で持続可能な施設運営を図る

中間アウトカム

アートを通じた学びの拠点をつくる

- ・ 事業はもとより、日々の美術館運営の中でもアートを通じた能動的な学びが沸き起こる状況をつくる

新しい活動や価値が生まれる土壌をつくる

- ・ 人々の創造力を育み、誰もが新しいことに挑戦したくなる雰囲気や醸成し、新しい活動や新たな価値が生み出される土壌をつくる

クリエイティブ人材が集まる環境をつくる

- ・ 地域に新たな刺激をもたらすクリエイティブ人材が集まり、八戸ならではの活動が展開できる環境をつくる

最終アウトカム

「アートの学び」を提供する八戸ならではの美術館としてのアイデンティティ確立と地域の牽引

評価アドバイザーによる支援について

1 事業評価について

「八戸市新美術館中期運営計画」に基づき、計画期間(令和3年度から令和6年度)の中期評価を行うこととしており、評価アドバイザーによる支援を受けながら評価を行う。

2 評価アドバイザー

九州大学 大学院芸術工学研究院 教授 中村 美亜 氏

3 選定理由

中村氏は、文化政策・アートマネジメント研究を専門としており、芸術活動が人や社会に変化をもたらすプロセスや仕組みに関する学際的・実践的研究、その知見を活かした評価の研究を行っており、当館の事業評価に関して有益な助言を受けることができるものと判断したため。

4 これまでの状況

開催日	概要
令和6年7月25日(木)	オンライン打合せ ・美術館概要、総務経営グループ担当事業(アートファーマープロジェクト、大学・高専連携プロジェクトなど)について説明。 ・評価の方針について確認。
令和6年8月1日(木)	オンライン打合せ ・企画運営グループ担当事業(展覧会、プロジェクト、学校連携プロジェクトなど)について説明。 ・評価の進め方について協議。
令和6年8月9日(金) ～令和6年8月24日(土)	事前課題(関わったプロジェクトに関して、ステークホルダーごとに即時的・中期的・将来的変化を検討する内容)を職員が実施(8人が提出)。
令和6年8月25日(日)	中村氏が来館し、「評価の基本とセオリー評価」に関する講義を行ったほか、職員が「ロジックモデルを用いたセオリー評価」の演習を行った。(館長含め 10 人が参加)
令和6年9月26日(木)	オンライン打合せ ・ロジックモデル素案などについて助言を受けた。
令和6年 10 月 9 日(水)～	運営協議会資料(評価関連部分)の確認と加筆修正



8月25日 講義及びワークショップの様子

5 今後について

当運営協議会で挙げられた意見を参考に、事業評価及び次期中期運営計画の見直しについて引き続き助言を受ける。

今回の評価方針について

今回、「八戸市新美術館中期運営計画」に基づく事業評価を実施するにあたって、以下の点が確認され、課題として示された。

a. アウトプット(活動の結果)

中期運営計画に記載のある「新美術館の目標達成に向けて、どれだけの人員と予算を投資して、どのような事業を行い、どのような成果を生み出したのかという関係性を明確にしながら、利用者数やプログラム実施数などの数値で表しやすい評価指標」を用いて評価するという部分については、恒常的にデータを蓄積し、年次報告書などの作成により事業実績を整理していることから、評価に必要なリソースは十分整理されていることが確認された。

b. アウトカム(市民や社会の変化)

一方で、中期運営計画に記載のある「事業に参加した人の変化や新たに生み出されたものなどの数値で表しにくい事柄の評価指標を用いて、美術館全体の評価を行う」をどのように実施するかを検討する必要がある。特に八戸市美術館のユニークなプロジェクト型の活動を評価する方法を考えなくてはならない。

c. 次期中期運営計画

加えて、次期の中期運営計画を策定するためには、実際に美術館を3年間運営した経験を踏まえて、当初の中期運営計画の内容を検証する必要がある。

以上を踏まえ、今回は次のようなステップで評価を実施することとした。

(1) アウトカムの予備的検討

「事業に参加した人の変化や新たに生み出されたものなどの数値で表しにくい事柄の評価指標」を見つけるためには、まず美術館の活動によって、どのような変化があったのかを知る必要がある。そこで各職員に対して、ワークショップの事前課題として、自分が関わった活動のそれぞれについて、どのような変化が①その場で生じたか、②現在生じつつあるか、③将来生じると考えられるかについて回答を求める。

これらの回答は、美術館の活動から生まれるアウトカムの「仮説」に過ぎないが、これを裏付ける定量的もしくは定性的エビデンスが提供されれば、アウトカムが立証されたこととなる。また、今回見出された直接アウトカムをもとに指標を作成することで、次回以降、八戸市美術館にユニークな価値を恒常的に測定することも可能になる。

(2) 事業計画の評価(資料5)

中期運営計画の戦略目標が、ビジョンの実現に向けて妥当なものかどうかを評価するために、リニューアルオープン前に策定した中期運営計画に基づくロジックモデル(事業が成果を生み出すまでの論理的因果関係を示した図)と、ワークショップにおいて3年間の事業活動を踏まえて職員が作成したロジックモデルを比較して、中期運営計画の妥当性をセオリー評価する。

手順としては、まずワークショップにおいて、職員がこれまで何に尽力してきたか、何を目指してきたかを振り返りながらロジックモデルを作成することで、八戸市美術館の活動の全体像を俯瞰的に捉える。その上で、中期運営計画に当初描かれたロジックモデルと比較することで、成果が多く出たところ、成果が乏しいところなどを浮き彫りにする。この比較結果は、活動の達成度を可視化すると同時に、中期運営計画の妥当性を評価することにもつながり、次期中期運営計画の策定にも有益な示唆を提供する。

(3) 活動の評価(資料6、7)

八戸市美術館のユニークなプロジェクト型の活動を詳しく検証するため、3つの主要活動カテゴリー、①展覧会＋プロジェクト、②学校連携(学校連携プロジェクト、大学・高専連携プロジェクト)、③アートファーマープロジェクトについて、活動実績(アウトプット)だけでなく、プロセス評価、アウトカム評価を実施する。プロセス評価では、プログラムが意図したデザインに沿って実施・遂行できているかを評価することで、具体的な活動や手段が計画どおりに実施できたか、改善点はないかなどを検証する。アウトカム評価では、各活動の効果や貢献度を評価するために、定量評価、定性評価を用いて、達成度合いを分析・判定する。

一方、これら以外の活動については、実績と振り返りコメントのみの評価とする。

(4) 総合評価(資料8)

上記セオリー評価、プロセス評価、アウトカム評価及び実績評価の結果から、令和3年度から令和5年度までの八戸市美術館の事業活動を評価する。

なお、今回の評価では、アウトカムを裏付けるエビデンスが十分ではないところ、また、その達成度が不明確なところが散見される結果になると予想される。これは、中期運営計画を策定した時点では、リニューアルオープン前ということもあり、アウトカムの具体的な内容が想定されておらず、そのためのデータを収集できていなかったことに起因する。今後は、今回の評価結果を踏まえ、直接アウトカム、間接アウトカムに関する定量的・定性的データを収集していくことが必要だろう。大きな労力をかけなくても、ちょっとした工夫でできるように思う。

当館のこれまでの活動概要

1 展覧会＋プロジェクト(展覧会関連プログラムを含む)

八戸ゆかりの作品を中心とした収蔵品をより深く味わうコレクション展をはじめ、人気の高い巡回展や他美術館などと連携した企画展を実施した。また、展覧会だけでなく、作品鑑賞やものづくりワークショップなど、展覧会から学べる様々なプログラムから構成されるプロジェクトを実施した。そのほか、展覧会関連プログラムとして、当館の特徴であるジャイアントルームを活用し、ほろ酔い鑑賞「ほろハチ」や「ジャイアント食堂」など、芸術鑑賞の幅を広げる取組を行った。

八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」 	開館記念企画として、八戸を代表する祭りである「八戸三社大祭」を出発点に、アートを通して「ギフト」の精神を見つめる展覧会とプロジェクトを開催した。 会期 令和3年11月3日(水・祝) ～令和4年2月20日(日) 開催日数 93日間 会場 ギャラリー、コレクションラボ、 ブラックキューブ、ホワイトキューブ、 ジャイアントルーム
持続するモノガタリ語る・繋がる・育む 	八戸市美術館コレクションから約5年ぶりの収蔵作品展。作品(モノ)が語ることと、人が作品を語ることの2つの意味での「モノガタリ」の持続をテーマに開催した。 会期 令和4年3月19日(土)～6月6日(月) 開催日数 69日間 会場 ホワイトキューブ、ブラックキューブ 会議室
まるごと馬場のぼる展 描いた つくった 楽しんだ ニャゴ! 	絵本「11 ぴきのねこ」シリーズで知られる漫画家・馬場のぼるを様々な側面から紹介する巡回展を開催。絵本や漫画の原画類、50年分のスケッチブックなどに加え、漫画に熱中していた幼少期や青年期の貴重なノートやイラスト、楽しみのために制作した絵画や立体作品など474点を展示した。 会期 令和4年7月2日(土)～8月29日(月) 開催日数 51日間 会場 ホワイトキューブ、コレクションラボ、 ブラックキューブ、ジャイアントルーム

佐藤時啓一八戸マジックランタン— 	「写真のまち八戸」事業の一環として実施した展覧会であり、2016 年度からは写真家招聘プロジェクトして佐藤時啓を招聘し、八戸市内をリサーチ・撮影した写真作品を制作、展示した。関連して佐藤が制作した「リヤカーメラ（リヤカー＋カメラ）」をアートファーマーが運行するプロジェクトなどを実施した。 会期 令和4年10月29日(土) ～令和5年1月9日(月・祝) 開催日数 73 日間 会場 ホワイトキューブ、ブラックキューブ、 ジャイアントルーム
コレクションラボ 001 舟越保武展—静謐の中に佇む 	日本の戦後具象彫刻の礎を築いた舟越保武。キリスト教をテーマとした作品を多く手掛け、それらは、静謐、端正、精神性といった様々な言葉で形容された。当館の所蔵するブロンズ彫刻やリトグラフ、デッサンなど全 19 作品を展示した。 会期 令和4年3月19日(土)～6月20日(月) ※前期 3月19日(土)～5月9日(月) 後期 5月12日(木)～6月20日(月) 開催日数 82 日間 会場 コレクションラボ
ジャイアント食堂 	ジャイアントルームの可能性を探るプロジェクト。様々な活動が美術館で行われることの実践を提示し、美術館をより多くの市民に身近に感じてもらうことを目的に開催した。 開催日 令和4年6月25日(土) 会場 ジャイアントルーム
コレクションラボ 002 地をみつめる 	八戸ゆかりの作家による、八戸市の風景が描かれた収蔵作品を 21 点展示。作家や描かれた風景の紹介とともに、作品の描かれた背景や、作家の心情を紐解いた。 会期 令和4年9月10日(土) ～令和5年1月16日(月) ※前期 9月10日(土)～11月7日(月) 後期 11月9日(水)～1月16日(月) 開催日数 109 日間 会場 コレクションラボ

コレクションラボ 003 七尾英鳳—花鳥風月を愛でる— 	ふるさとの風景を愛で、その優美で繊細な美しさを表現し続けた七尾英鳳(1884～1962)。十和田湖や八甲田山を描いた襖絵や屏風絵など、新収蔵となった作品 5 点を初公開するとともに、すでに収蔵していた作品から初期の山水図 3 点を加え、英鳳が得意とした「花鳥風月」の世界を紹介した。 会期 令和5年 1 月 21 日(土)～2 月 20 日(月) 開催日数 27 日間 会場 コレクションラボ
第 59 回八戸市美術展 	八戸市文化協会が長年実施する八戸市美術展を、八戸市美術館との共催により開催。多彩なジャンルの作品が展示されたほか、生活文化展では会場内でワークショップや体験コーナーが設置された。 会期 前期(書道) 令和4年 9 月 30 日(金)～10 月 2 日(日) 後期(絵画・工芸、写真) 令和4年 10 月 7 日(金)～10 月 9 日(日) 会場 ホワイトキューブ、ジャイアントルーム、ギャラリー、スタジオ
美しい HUG ! 	アーツカウンシル東京の森司をゲストキュレーターに迎え、青木野枝、井川丹、川俣正、きむらとしろうじんじん、黒川岳、タノタイガの 6 名のアーティストによる現代アートの展覧会とプロジェクトで構成する企画である。 会期 令和 5 年 4 月 29 日(土)～8 月 28 日(月) 開催日数 122 日間 会場 ホワイトキューブ、コレクションラボ、ブラックキューブ、ジャイアントルーム
ロートレックとベル・エポックの巴里—1900 年 	1900 年前後の数十年間、パリが世界有数の大都市として発展した「ベル・エポック」という華やかな時代を紹介する展覧会を開催した。当時を代表する芸術家であるアンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック(1864-1901)をはじめ、ミュシャやドガといった作家のリトグラフや油彩画の作品など、328 点を展示した。共創パートナーとともに展示や関連する共創企画も実施した。 会期 令和5年 11 月3日(金・祝)～12 月 25 日(月) 開催日数 46 日間 会場 ホワイトキューブ

仲條正義名作展 	資生堂企業文化誌『花椿』のアートディレクションで知られるグラフィックデザイナー・仲條正義のデザインの数々を、八戸ブックセンター・八戸市美術館の2会場で紹介。八戸ブックセンターではブック・エディトリアルを、八戸市美術館ではポスター、ロゴ、パッケージを中心に厳選した作品を展示した。 会期 令和5年4月22日(土)～5月21日(日) 開催日数 28日間 会場 ギャラリー
コレクションラボ 004 伊藤二子一生のかたち— 	昭和から平成にかけて、「非具象」による表現を探究した伊藤二子(1926～2019)。生きることへの問い掛けや心の内を、大胆な線や形、色で伝えようとした。躍動感あふれる新収蔵作品を初公開。 会期 令和5年2月24日(金)～4月10日(月) 開催日数 40日間 会場 コレクションラボ、ブラックキューブ
コレクションラボ 005 奏でる工芸 	音をテーマに、工芸作品を展示。作品だけでなく、実際の楽器も展示し、作品に対応する音を探しながら鑑賞できる仕掛けをつくった。 会期 令和5年9月9日(土)～12月18日(月) 開催日数 87日間 会場 コレクションラボ
コレクションラボ 006 美の殿堂 鈴木コレクション 	女性や花などをモチーフとした写実画を中心に、個人コレクションが「美の殿堂」と呼ばれる「美術館」の起源の一つであることに着想を得た展覧会として、鈴木コレクションの華やかな世界を紹介した。 会期 令和5年12月23日(土) ～令和6年3月18日(月) 開催日数 72日間 会場 コレクションラボ

第 60 回八戸市美術展 	八戸市文化協会が長年実施する八戸市美術展を、八戸市美術館との共催により開催。多彩なジャンルの作品が展示されたほか、生活文化展では会場内でワークショップや体験コーナーが設置された。 会期 前期(書道) 令和5年9月 21 日(木)～9月 24(日) 後期(絵画・工芸、写真) 令和5年9月 28 日(木)～10 月1日(日) 会場 ホワイトキューブ、ジャイアントルーム、ギャラリー、スタジオ
かだるアート 浮世絵編 	八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」に関連して、共創パートナーを講師に迎え、出展作品の浮世絵から、浮世絵文化を学ぶ連続講座を開催した。
ジャポニズム～ベル・エポック共創企画 	「ロートレックとベル・エポックの巴里」展に関連して、ロートレックやベル・エポックから着想された、共創パートナーと企画した、7つの様々な展覧会や映画上映会などを実施した。美術館だけでなく、街中にまで拡げて開催した。 写真 デザイン史講座
ほろ酔い鑑賞「ほろハチ」 	ほろ酔い気分で作品鑑賞を楽しむ八戸市美術館オリジナル企画。お酒をいただいた後、コレクションラボの展示作品を鑑賞して感じたことや思い出を語り合った。 会場 コレクションラボ、ジャイアントルーム

アートミュージアム晩餐会



展覧会「ロートレックとベル・エポックの巴里ー1900 年」
関連企画として、市内ホテルのシェフやソムリエによる地元食材を使ったコースメニューを提供するとともに、社交ダンスやトークイベントなど、当時の雰囲気を感じてもらえるイベントを開催した。

開催日 令和5年 11 月 29 日(水)

会場 ジャイアントルーム

2 学校連携(学校連携プロジェクト+大学・高専連携プロジェクト)

学校連携プロジェクトでは、小・中・高校の教員、美術館の学芸員や専門家が「学校連携プロジェクトチーム」をつくり、館内に活動拠点となる「学校連携ラボ」を設置して、児童生徒一人一人がアートを通して自ら答えをつくり出していく力を引き出すことを目指して、学校の授業で役立つツールやプログラムづくりのほか、学校教育だけでは実現できない取組を行った。校種を超えて児童生徒が共同で創作活動を行ったり、アーティストが小学校に出張してワークショップを開催したりするなど、ものづくりやアートに触れる機会を提供した。

また、大学・高専連携プロジェクトでは、市内の大学・高専が有する専門性と美術館の専門性を掛け合わせた取組を行い、生徒・学生などが大学・高専の専門性に触れることができる「三校連携創作体験ワークショップ」や、社会人と学生と一緒に学び、社会で実践できる「学生×社会人のアートの学び講座」を実施したほか、「託児サービス」では、子育て世代が美術館に気軽に来館できる機会と学生の実践的な学びの機会を創出するなど、美術館のアクセシビリティの向上につながる取組を行った。

学校連携プロジェクト



アートの学びを重視し、小学校・中学校・高等学校などの教育機関との連携強化を計画に掲げている。令和2年度に設置した「学校連携プロジェクトチーム」は、小中高の教員と美術館学芸員、専門家で構成されており、児童生徒の個々の価値観や美意識を醸成し、一人一人がアートを通して自立する機会をつくるために、互いにアイデアを出しながら協力し、活動している。令和5年度には学校連携プロジェクトチームの活動拠点となる「学校連携ラボ」を館内に設置した。

写真(上) 学校連携プロジェクトチーム会議

写真(下) 大きな絵プロジェクト(左)、小中高合同鑑賞会(右上)、美術館新聞部プロジェクト(右下)

大学・高専連携プロジェクト



美術館の特徴である「アートของ学び」の具現化に向けて、美術館の事業の柱の1つである大学との連携により大学ならではの資産を活用したアートを通じた人材育成に関する事業を行った。

写真(上) 三校連携創作体験ワークショップ

写真(下) 託児サービス

3 アートファーマープロジェクト

美術館の企画や運営に能動的に関わる市民スタッフ「アートファーマー」が八戸市美術館の建築の魅力を独自の目線で紹介する「建築ツアーガイド」や、アーティストとの共同創作活動や企画運営をサポートするなど、美術館と人、作品と人、人と人をつなぐ取組を行った。

建築ツアーガイド



八戸市美術館の建築の魅力や特徴を、みんなで一緒に学び、学んだことを他の誰かに自分の言葉で伝える実践(ガイド)を通して、美術館と人をつなぎ、新たなコミュニティを育むことを目的に実施した。

毎月最終土曜日に開催

リヤカーメラプロジェクト 	展覧会「佐藤時啓一八戸マジックランタンー」関連プロジェクトとして、「リヤカーメラ(リヤカー+カメラ)」をアートファーマーが運行するプロジェクトなどを実施した。 1 リヤカーメラプロジェクト 令和4年9月4日(日)、18日(日)、 10月9日(日)、11月6日(日) 2 リヤカーメラに乗ってみよう 令和4年9月18日(日)、11月6日(日)、 12月3日(土)、18日(日)
きむらとしろうじんじん野点八戸 	美術家・陶芸家のきむらとしろうじんじんが、道具一式を積んだリヤカーで“野点”を開催。参加者が絵付けしたお茶碗をその場で焼き上げ、お茶を点てる。野点会場探しや野点本番の運営は、公募で集まったプロジェクトスタッフが行った。 1 きむらとしろうじんじん八戸野点 2022 令和4年6月11日(土)～10月1日(土) 2 きむらとしろうじんじん八戸野点 2023 令和5年5月3日(水)～10月7日(土)
タノミマスプロジェクト 	タノタイガ《タノミマス》の作品制作や運営をサポートするアートファーマープロジェクト。展覧会の会期前には、アーティストによる作品説明やお面づくり体験、お面の穴あけやゴム通しなどの下準備を行った。会期中は、来場者の材料選びや制作のサポートを行った。
MEETIUM 	「MEETIUM(ミーティアム)」とは、「人に会う=meet」と「美術館=museum」を掛け合わせた造語。アートファーマープロジェクト「建築ツアーガイド」で活躍する市内の高校生が交流を生み出す場について考えるワークショップを開催した。 開催日 令和6年2月24日(土) 会場 ワークショップルーム

アートファーマーミーティング



「アートファーマープロジェクト」のこれまでとこれからを、これまで各プロジェクトで活躍してきたアートファーマーとアーティスト、そしてゲストとともに考えるミーティングを開催。

開催日 令和6年3月16日(土)

会場 ジャイアントルーム

あそらぼ！創作パズル・ゲーム展



冬休みイベント「あそらぼ！創作パズル・ゲーム展」と一緒に運営するプロジェクト。八戸在住の木のからくり作家をはじめとした「あそらぼ！実行委員会」と一緒に、アートファーマーが展示作品について学びながら準備を重ね、展示作品の遊び方の案内や見守りを行った。

開催日 令和5年12月23日(土)

～令和6年1月14日(日)

4 賑わい創出事業

美術館に来たことがない、または美術館は自分と縁遠い場所と思っている市民向けに、美術分野にこだわらず集客が見込めるイベントなどを実施し、美術館をより身近なものに感じてもらうとともに、中心街の活性化や回遊性向上につながる取組を行った。

ゴールデン・ジャイアント・ウィーク 	ゴールデンウィーク期間に、まだ美術館に来たことがない・美術館に興味がない方をメインターゲットに、ジャイアントルームや広場を中心に集客イベントを開催し、来館動機を喚起する。子どもの日にちなんだプログラムや街中イベントなど合わせて実施することで中心街の賑わいを創出し、街中の回遊性を高めるとともに、各実施団体・個人と共催することで、新たな共創パートナーの開拓を図った。 開催日 令和4年4月29日(金・祝)～5月8日(日)
ジャイアントサマー 	夏休み期間に、まだ美術館に来たことがない・美術館に興味がない方をメインターゲットに、ジャイアントルームや広場を中心に集客イベントを開催した。「まるごと馬場のぼる展」にちなんだプログラムや街中イベントなど合わせ、サマープログラムを実施することで中心街の賑わいを創出し、街中の回遊性を高めるとともに、各イベントにおいて各実施団体・個人と共催することで、新たな共創パートナーの開拓を図った。 開催日 令和4年7月2日(土)～8月29日(月)
ヨルニワ 	中心街の活性化に寄与することを目的に、八戸市更上閣・八戸ポータルミュージアム「はっち」・八戸市美術館を会場に、キッチンカーや飲食屋台と音楽ライブを楽しむ屋外イベントを開催した。 開催日 令和4年6月10日(土)、10月14日(土)

5 貸館利用

市内外で活動している個人・団体が、八戸市美術館の建物の特性を活かして、展覧会のみならず様々な活動で利用し、出会いと交流の場の創出につながるよう、貸館事業を行った。また、アートのまちづくりの拠点施設として、美術館としての従来の機能や役割を大切にしながら、スポーツ、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業など他分野との連携により相乗効果が期待される企画について、積極的に受け入れた。

3×3(スリー・エックス・スリー) 	当館の特色であるジャイアントルームの活用の可能性を探る一環として、地元プロバスケットボールチーム「八戸ダイム」主催による3人制バスケットボール「3×3」のエキシビジョンマッチ会場として貸し出した。まだ、当館に訪れたことがない新たな客層が来館したほか、アートとスポーツの融合の可能性を探ることができた。 開催日 令和5年3月 26 日(日)
Cinematic Art Museum 1028 	八戸市出身で人気ロックバンド「androp」のボーカル・内澤崇仁のアコースティックライブと特別ゲスト・大宮エリーが演奏に合わせたライブペインティングを披露し、音楽とアートを融合させたパフォーマンスを行った。 開催日 令和5年 10 月 28 日(土)

事業計画の評価

1 ロジックモデルの作成

- ・中期運営計画に基づくロジックモデル A を作成した。(図1)
- ・評価アドバイザー・中村氏のファシリテーションのもと、事業評価ワークショップにおいて職員が2グループに分かれ、3年間の事業活動を踏まえて作成したロジックモデル2案を調整して、ロジックモデル B を作成した。(図2)
- ・ロジックモデル A にロジックモデル B を当てはめてロジックモデル C を作成した。(図3)

2 事業計画の妥当性の検証(セオリー評価)

ロジックモデル C を検証した結果は次のとおりであった。

- ・展覧会やプロジェクト、共創企画は、八戸地域のアートやアーティストを知り、八戸地域の文化芸術の理解促進につながっていることから妥当性がある。
- ・学校連携プロジェクトは、美術館と小中高校の教員とのつながりが深まっており、今後、学校において朝鑑賞などの取組が進めば、八戸地域の文化芸術の理解が深まっていくことが想定されることから妥当性がある。
- ・アートファーマープロジェクトは、アーティストや仲間と一緒に創作活動を行うことで、世代を超えたつながりができたり、創造的な体験につながったりしていることから妥当性がある。

3 セオリー評価から明らかになったこと

- ・当初の中期運営計画においては、直接アウトカムの想定がなかったために(活動を開始する前で具体的に想定できなかったために)、活動のアウトプットから中間アウトカムへ到達するプロセスが不明であった。今回のロジックモデル作成を通じて、美術館の活動がどのような直接アウトカムを生むかが言語化され、中間アウトカムにつながる道筋が見えてきた。
- ・同様に、これまで抽象的にしか語られてこなかった中間アウトカム、最終アウトカムについても、美術館の活動と結びつく形で具体的に言語化されるようになった。
- ・その一方で、直接アウトカムの想定がなかったために、直接アウトカムのエビデンスが十分に示されておらず、達成度が明確ではない。今回の評価で想定が可能になったので、今後は、事業実施時にアウトカムに関する定量的・定性的データ(アンケート項目の工夫、参加者の証言記録など)を収集することが期待される。

4 ワークショップでのロジックモデル(図2)作成による効果

- ・自分たちの言葉で対話することで、各職員がどのような考えを持っているかがわかり、(少しずつ違いはあっても)同じ目標に向かって行動していることが共有された。
- ・ロジックモデルの作成を通じて、各職員の担当するプロジェクトが、美術館全体の事業の中でどのような位置づけにあたるのかが明確になった。
- ・直接アウトカムが中間アウトカム、さらには最終アウトカムにつながっていくためには、更なる工夫や連携が必要であることが自覚された。

図1 ロジックモデルA（八戸市新美術館中期運営計画）

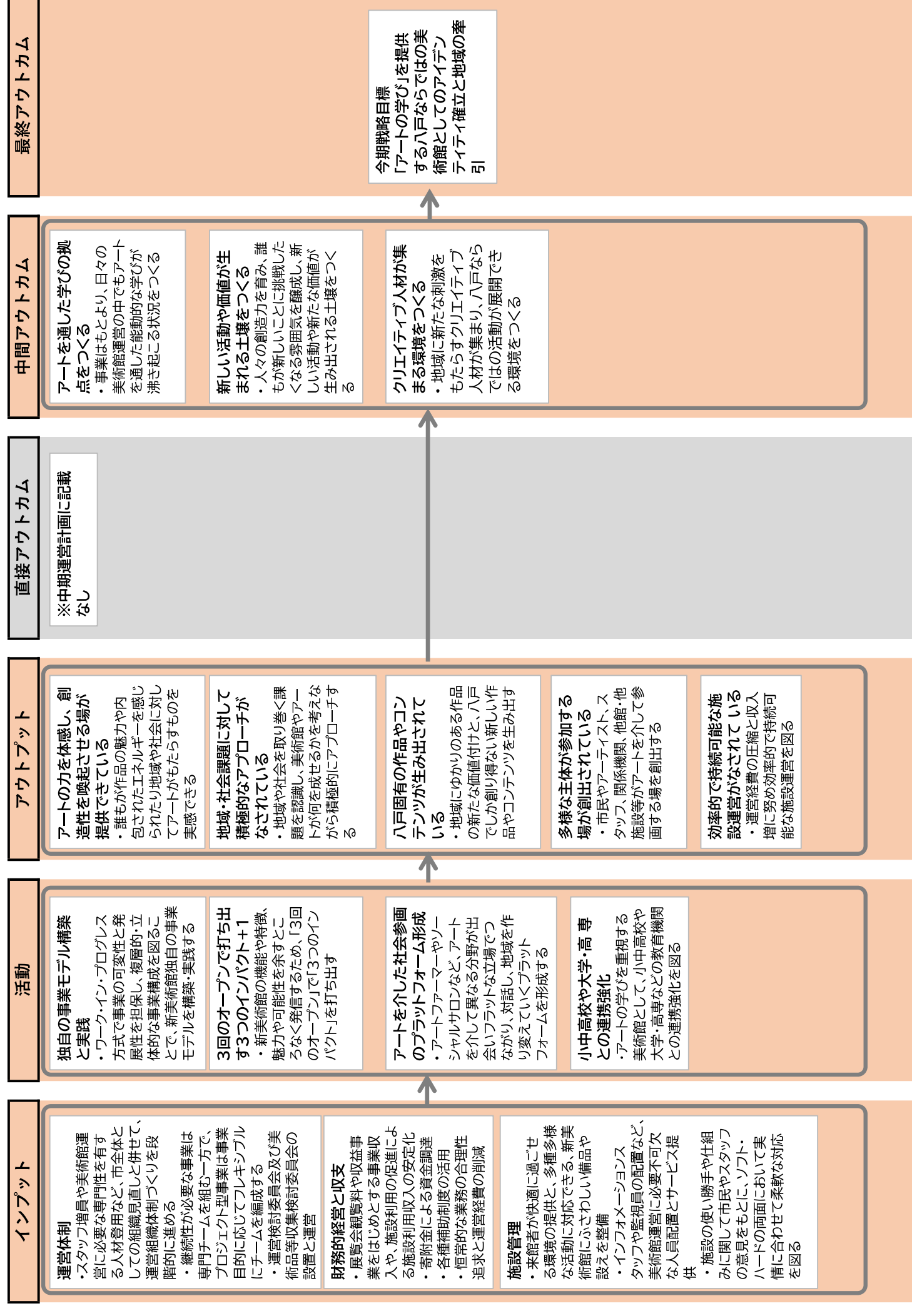


図2 ロジックモデルB（ワークショップにて作成）

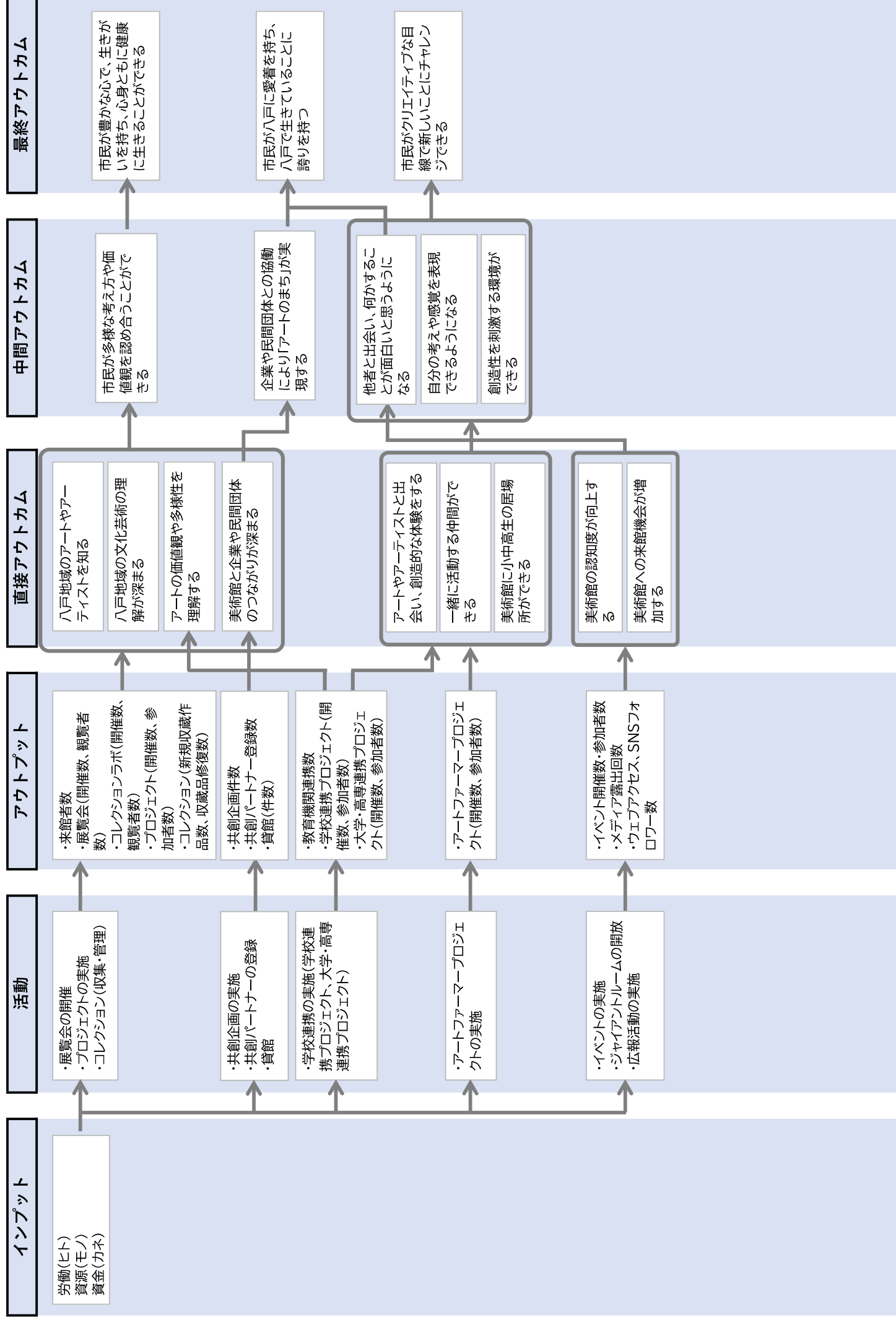
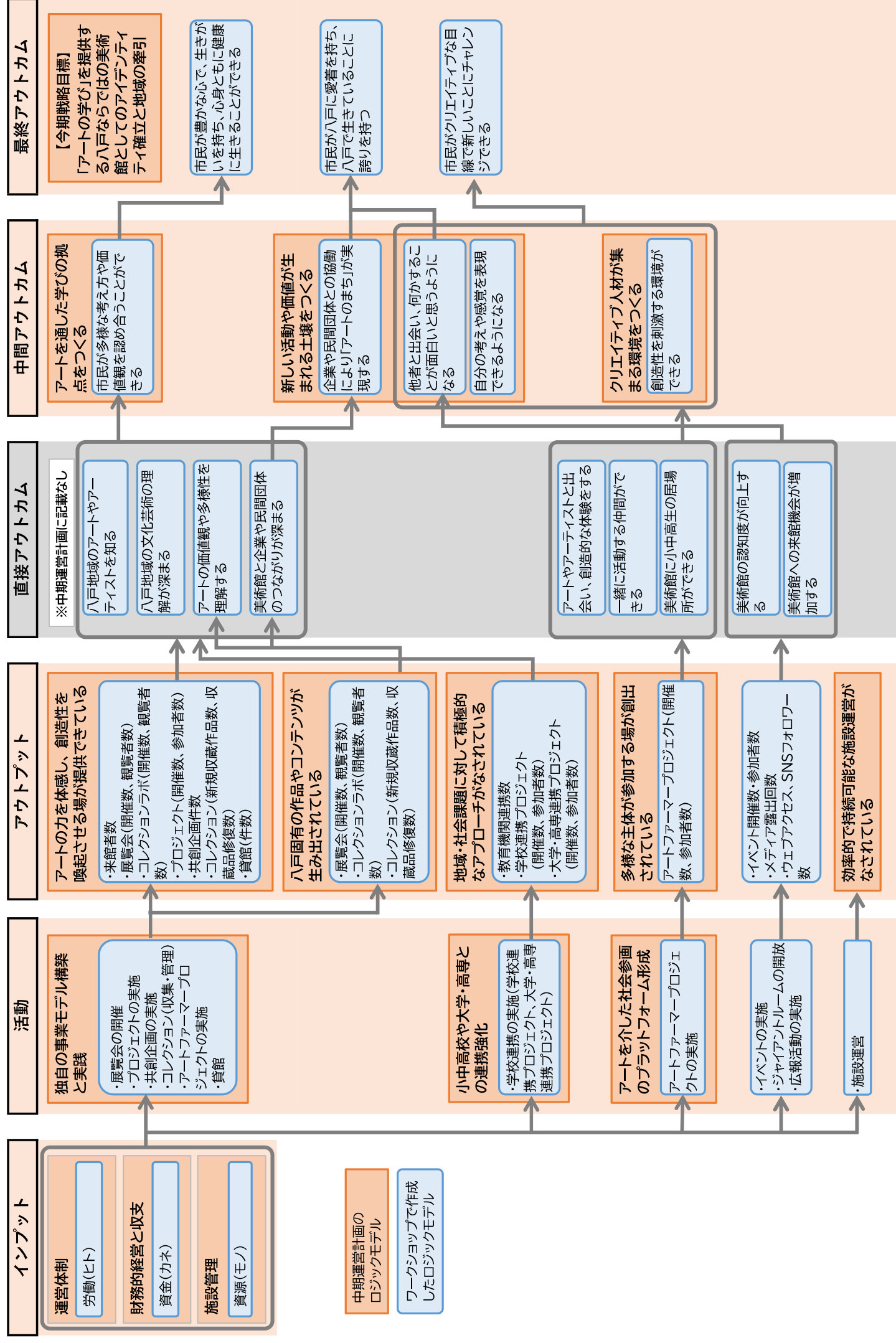


図3 ロジックモデルC



主要な活動の評価

1 展覧会+プロジェクト

事業区分	展覧会＋プロジェクト																		
事業の特徴	美術館の展示スペースである「ホワイトキューブ」や「コレクションラボ」を主に用いて展覧会を開催した。独自の企画に加え、収蔵作品から構成されるコレクション展、他美術館などと連携した巡回展などを実施した。展覧会だけでなく、作品鑑賞やものづくりワークショップなど、展覧会から学べる様々なプログラムから構成されるプロジェクトを実施した。																		
実施した活動	<table><tr><th>年度</th><th colspan="3">内容</th></tr><tr><td>R3</td><td colspan="3">八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」 アートファーマープロジェクト 向井山朋子パフォーマンス「gift」 アートファーマープロジェクト かだるアート 浮世絵編</td></tr><tr><td>R4</td><td colspan="3">持続するモノガタリ 一語る・繋がる・育む 八戸市美術館コレクションから まるごと馬場のぼる展 描いた つくった 楽しんだ ニャゴ！ 佐藤時啓一八戸マジックランタンー アートファーマープロジェクト 「リヤカーメラプロジェクト」 コレクションラボ 001 舟越保武展ー静謐に佇む コレクションラボ 002 地をみつめる コレクションラボ 003 七尾英鳳ー花鳥風月を愛でるー 第 59 回八戸市美術展</td></tr><tr><td>R5</td><td colspan="3">美しい HUG！ アートファーマープロジェクト きむらとしろうじんじん八戸野点 2022 アートファーマープロジェクト タノミマスプロジェクト ロートレックとベル・エポックの巴里ー1900 年 仲條正義名作展 コレクションラボ 004 伊藤二子一生のかたちー コレクションラボ 005 奏でる工芸 コレクションラボ 006 美の殿堂 鈴木コレクション 第 60 回八戸市美術展</td></tr></table>			年度	内容			R3	八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」 アートファーマープロジェクト 向井山朋子パフォーマンス「gift」 アートファーマープロジェクト かだるアート 浮世絵編			R4	持続するモノガタリ 一語る・繋がる・育む 八戸市美術館コレクションから まるごと馬場のぼる展 描いた つくった 楽しんだ ニャゴ！ 佐藤時啓一八戸マジックランタンー アートファーマープロジェクト 「リヤカーメラプロジェクト」 コレクションラボ 001 舟越保武展ー静謐に佇む コレクションラボ 002 地をみつめる コレクションラボ 003 七尾英鳳ー花鳥風月を愛でるー 第 59 回八戸市美術展			R5	美しい HUG！ アートファーマープロジェクト きむらとしろうじんじん八戸野点 2022 アートファーマープロジェクト タノミマスプロジェクト ロートレックとベル・エポックの巴里ー1900 年 仲條正義名作展 コレクションラボ 004 伊藤二子一生のかたちー コレクションラボ 005 奏でる工芸 コレクションラボ 006 美の殿堂 鈴木コレクション 第 60 回八戸市美術展		
年度	内容																		
R3	八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」 アートファーマープロジェクト 向井山朋子パフォーマンス「gift」 アートファーマープロジェクト かだるアート 浮世絵編																		
R4	持続するモノガタリ 一語る・繋がる・育む 八戸市美術館コレクションから まるごと馬場のぼる展 描いた つくった 楽しんだ ニャゴ！ 佐藤時啓一八戸マジックランタンー アートファーマープロジェクト 「リヤカーメラプロジェクト」 コレクションラボ 001 舟越保武展ー静謐に佇む コレクションラボ 002 地をみつめる コレクションラボ 003 七尾英鳳ー花鳥風月を愛でるー 第 59 回八戸市美術展																		
R5	美しい HUG！ アートファーマープロジェクト きむらとしろうじんじん八戸野点 2022 アートファーマープロジェクト タノミマスプロジェクト ロートレックとベル・エポックの巴里ー1900 年 仲條正義名作展 コレクションラボ 004 伊藤二子一生のかたちー コレクションラボ 005 奏でる工芸 コレクションラボ 006 美の殿堂 鈴木コレクション 第 60 回八戸市美術展																		
アウトプット 指標	■展覧会等実施数 <table><tr><td></td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>展覧会</td><td>1 回</td><td>4回</td><td>4回</td></tr><tr><td>コレクションラボ</td><td>0 回</td><td>3回</td><td>3回</td></tr></table>				R3	R4	R5	展覧会	1 回	4回	4回	コレクションラボ	0 回	3回	3回				
	R3	R4	R5																
展覧会	1 回	4回	4回																
コレクションラボ	0 回	3回	3回																

■各展覧会の観覧者数

展覧会名	実績
八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」	13,089 人
持続するモノガタリ	5,005 人
まるごと馬場のぼる展	21,068 人
佐藤時啓	6,305 人
美しい HUG !	8,363 人
ロートレックとバル・エポックの巴里	7,520 人
仲條正義名作展	7,915 人
コレクションラボ 001 舟越保武展	6,418 人
コレクションラボ 002 地をみつめる	9,809 人
コレクションラボ 003 七尾英鳳	2,239 人
コレクションラボ 004 伊藤二子	3,480 人
コレクションラボ 005 奏でる工芸	8,525 人
コレクションラボ 006 美の殿堂	10,308 人
第 59 回八戸市美術展	5,613 人
第 60 回八戸市美術展	4,792 人
ジャイアント食堂	4,065 人

※八戸市美術展及びジャイアント食堂の実績は期間中の入館者数

■入館者数

年度	目標値	実績
R3	37,500 人	24,329 人
R4	90,000 人	119,983 人
R5	90,000 人	109,277 人

※R3年度は R3 年 11 月 3 日から R4年3月31日まで

※R4年1月 26 日～2月 20 日まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館

※R3 年度は開館期間が5か月間であったことから目標値を 37,500 人としている。

(90,000 人×5か月／12 か月)

■共創企画数

年度	実績
R3	1件(かだるアート 浮世絵編)
R4	0件
R5	2件(ジャポニズム～バル・エポック共創企画、街なかアートマップ制作)

	■主な展覧会関連プログラム(人) <table><tr><th>イベント名</th><th>開催数</th><th>参加者数</th></tr><tr><td>ほろ酔い鑑賞「ほろハチ」</td><td>7回</td><td>60人</td></tr><tr><td>アートミュージアム晩餐会</td><td>1回</td><td>40人</td></tr></table>	イベント名	開催数	参加者数	ほろ酔い鑑賞「ほろハチ」	7回	60人	アートミュージアム晩餐会	1回	40人					
イベント名	開催数	参加者数													
ほろ酔い鑑賞「ほろハチ」	7回	60人													
アートミュージアム晩餐会	1回	40人													
プロセス評価	■計画変更の有無など ・新型コロナウイルスの影響により、以下の活動に制限せざるを得なかった。また、イベントなどを実施する活動については、オフラインからオンラインへ変更したものが複数あった。 新型コロナウイルスの影響により制限が生じた活動内容 <table><tr><th>活動内容</th><th>制限内容</th></tr><tr><td>八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」</td><td>R4年1月26日～2月20日まで休館・人数制限を実施</td></tr><tr><td>アートファーマープロジェクト かだるアート 浮世絵編</td><td>R4年2月13日(日)は中止、3月13日(日)は4月17日(日)に延期して開催</td></tr><tr><td>プレイイベント「浅田政志アーティストトーク +祭りのスナップ写真募集」</td><td>オンラインにて開催</td></tr><tr><td>種さがしラボ 01「今、“ギフト”を考える。近内悠太×吉川由美トークイベント」</td><td>オンラインにて開催</td></tr><tr><td>アーティストトーク・最終日スペシャル！</td><td>オンラインにて開催</td></tr><tr><td>コレクションラボ 001 舟越保武展—静謐に佇む</td><td>R4年3月12日(土)開始予定を3月19日(土)に変更</td></tr></table> ・観覧者が少ない展覧会があったため、広報の方法や美術に関心がない層へのアプローチの工夫が必要である。 ・展示替えなどで観覧できる展示が全くなかった期間があったため、展覧会がない期間が生じないように計画を立てる必要がある。 ・ホワイトキューブでの展覧会を行っていない時期でも、これまでのプロジェクトで制作した「もの」や、写真・映像などのアーカイブに触れられる環境を整えたい。 ・八戸市美術館公式 HP 上で活動を発信・アーカイブ化できる機能があるが、うまく運用できていない。 ・ワークショップの講師から、実施後に活動を振り返ることができるアーカイブのウェブページがあったら良いという意見があり、取り組みたかったが、余裕がなくて結局できずに終わってしまった。 ・アーティストが関与したプロジェクトでつくられた作品のコレクション化が必要である。 ・企画内容の決定が遅れたため、募集開始から実施日までに日が無くなってしまい、参加者募集の広報が間に合わなかった。 ・業務が忙しすぎて、うまくいかなかった(参加者が少なかった)イベントに対して、なぜうまくいかなかったのか、どこを改善すればいいのかなど、活動を振り返る余裕がない。 ・共創企画を行う共創パートナーが固定化しつつあるため、新たな共創パートナーを発掘する必要がある。	活動内容	制限内容	八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」	R4年1月26日～2月20日まで休館・人数制限を実施	アートファーマープロジェクト かだるアート 浮世絵編	R4年2月13日(日)は中止、3月13日(日)は4月17日(日)に延期して開催	プレイイベント「浅田政志アーティストトーク +祭りのスナップ写真募集」	オンラインにて開催	種さがしラボ 01「今、“ギフト”を考える。近内悠太×吉川由美トークイベント」	オンラインにて開催	アーティストトーク・最終日スペシャル！	オンラインにて開催	コレクションラボ 001 舟越保武展—静謐に佇む	R4年3月12日(土)開始予定を3月19日(土)に変更
活動内容	制限内容														
八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」	R4年1月26日～2月20日まで休館・人数制限を実施														
アートファーマープロジェクト かだるアート 浮世絵編	R4年2月13日(日)は中止、3月13日(日)は4月17日(日)に延期して開催														
プレイイベント「浅田政志アーティストトーク +祭りのスナップ写真募集」	オンラインにて開催														
種さがしラボ 01「今、“ギフト”を考える。近内悠太×吉川由美トークイベント」	オンラインにて開催														
アーティストトーク・最終日スペシャル！	オンラインにて開催														
コレクションラボ 001 舟越保武展—静謐に佇む	R4年3月12日(土)開始予定を3月19日(土)に変更														

アウトカム評価

■来館者へのアンケート調査

調査結果は下表の通り、アンケート回答者のうち、すべての展覧会・コレクションラボにおいて、7割以上が「とても満足」または「満足」と回答した。「地元ならではの展示を見られて満足した」や「八戸にゆかりのある芸術家について詳しく知ることができた」、「作者の発想や見せ方に驚いた」などの好意的な感想があった。

一方で、「インパクトがない」、「何を見せたいのかわからない」、「他の美術館に比べてコンテンツが少ない」などの批判的な感想もあった。

展覧会やプロジェクトを通して、八戸ゆかりのアーティストを紹介できたほか、アートの奥深さを知っていただく機会を提供できたが、展示のコンセプトや内容に対して不満を持つ観覧者もいることから、観覧者の満足度向上と合わせて、不満を減らすための取組も今後の課題である。

○展覧会

	とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満	合計
持続するモノガ タリ展(n=18)	7人 38.9%	8人 44.4%	3人 16.7%	0人 0.0%	0人 0.0%	18人 100.0
馬場のぼる展 (n=162)	109人 67.3%	42人 25.9%	11人 6.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	162人 100.0
佐藤時啓展 (n=80)	35人 43.8%	27人 33.8%	14人 17.5%	0人 0.0%	4人 5.0%	80人 100.0
美しいHUG! 展(n=55)	22人 40.0%	23人 41.8%	9人 16.4%	0人 0.0%	1人 1.8%	55人 100.0
ロートレック展 (n=10)	7人 70.0%	2人 20.0%	1人 10.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	10人 100.0

○コレクションラボ

	とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満	合計
船越保武展 (n=19)	8人 42.1%	7人 36.8%	4人 21.1%	0人 0.0%	0人 0.0%	19人 100.0
地をみつめる展 (n=95)	42人 44.2%	35人 36.8%	14人 14.7%	1人 1.1%	3人 3.2%	95人 100.0
七尾英鳳展 (n=16)	10人 62.5%	5人 31.3%	1人 6.3%	0人 0.0%	0人 0.0%	16人 100.0
伊藤二子展 (n=20)	13人 65.0%	5人 25.0%	2人 10.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	20人 100.0
奏でる工芸展 (n=2)	1人 50.0%	1人 50.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 100.0
鈴木コレクショ ン展(n=2)	1人 50.0%	1人 50.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 100.0

■活動によって起きた変化

- ・当館の収蔵作品を展示する展覧会やコレクションラボを通じて、八戸地域のアートやアーティストを知る機会を提供し、市民の地域の美術、歴史や文化への関心が高まった。観覧者からは、「高校卒業以来、八戸に対する興味を持てなかったが、作品を通じて故郷へ回帰した気持ちになった」、「わざわざ2時間かけて来て良かった。迫力のある絵に生きる元気をもらった」という感想があった。
- ・学芸員が、他の学芸員が企画した展覧会の準備を手伝うことによって、作品への理解が深まったり、新たなアーティストを知ったりする機会となり、新たな発想で企画案をつくることができた。
- ・美術館に興味がない人が、知人に誘われてリヤカーメラプロジェクトに参加したところ、美術館の活動が面白いと感じ、その後もタノミマスプロジェクトなどに参加している。
- ・ほろ酔い鑑賞「ほろハチ」やアートミュージアム晚餐会では、食や他分野のアートとの連携により、アートに触れる機会の提供を拡大できる可能性ができた。

■今後起きそうな変化

- ・継続的に満足度の高い展覧会やプロジェクトを行うことにより、当館への再訪意欲が高まり、美術館を身近なものと感じる市民が増える。
- ・継続的に多様な展覧会・プロジェクトを行うことで、市民の美術への価値観の幅が広がり、鑑賞したい美術分野の要望が変化する。
- ・アートの多様性を知ること、美術以外の分野への興味・関心が向上する。
- ・多様な考えや価値観を認め合うことで、美術館が「市民と市民が美術を起点とした話し合い（交流）の場」になる。

■中間・最終アウトカムを達成するために今後必要なこと

- ・八戸地域の風土に根差した独自の文化芸術作品の展覧会や国内外問わず多様な分野の展覧会、能動的に関わることができるプロジェクトの提供。
- ・芸術鑑賞の幅を広げるため、アートミュージアム晚餐会やほろ酔い鑑賞「ほろハチ」など、当館だからこそできる企画の取組み。
- ・小・中学校を中心とした低年齢層への広報活動の継続。

2 学校連携

事業区分	学校連携(学校連携プロジェクト、大学・高専連携プロジェクト)																							
事業の特徴	1 学校連携プロジェクト 八戸市美術館では、アートの学びを重視し、小学校・中学校・高等学校などの教育機関との連携強化を計画に掲げている。2020 年度に設置した「学校連携プロジェクトチーム」は、小中高の教員と美術館学芸員、専門家で構成されており、児童・生徒の個々の価値観や美意識を醸成し、一人一人がアートを通して自立する機会をつくるために、互いにアイデアを出しながら協力し、活動している。これまでの活動の中で、教員は、美術館との連携授業やプロジェクトを考えたり、実際にそれを実践して観察し、今後の授業へ活かしたりしている。また、校種の異なる教員と協力、交流することで、多くのことを学び合っている。同時に、八戸市美術館の学芸員も、教員から教育のあり方を学び、美術館の事業に活かしている。 2 大学・高専連携プロジェクト 美術館の特徴である「アートの学び」の具現化に向けて、美術館の事業の柱の 1 つである大学との連携により大学ならではの資産を活用したアートを通じた人材育成に関する事業を行っている。ジャイアントルームや八戸学院まちなかラボを始めとする様々な活動スペースの利活用や、大学活動拠点と連携した事業の方向性を探り、人材育成や地域の活性化、アクセシビリティの向上につなげる事業を展開した。																							
実施した活動	1 学校連携プロジェクト <table><tr><th>年度</th><th>活動内容</th></tr><tr><td rowspan="4">R3</td><td>学校連携プロジェクトチーム全体会議</td></tr><tr><td>大きな絵プロジェクト</td></tr><tr><td>小中高同じテーマで作品づくりプロジェクト</td></tr><tr><td>美術館新聞部プロジェクト</td></tr><tr><td rowspan="5">R4</td><td>学校連携プロジェクトチーム全体会議</td></tr><tr><td>小中校合同鑑賞会</td></tr><tr><td>美術館新聞部プロジェクト</td></tr><tr><td>はみ出す力展 vol. 4—図工・美術の授業展 2022 への出展</td></tr><tr><td>令和 4 年度 第 1 回総合教育会議</td></tr><tr><td rowspan="8">R5</td><td>学校連携プロジェクトチーム全体会議</td></tr><tr><td>展覧会「美しい HUG！」タノタイガによる小学校出張ワークショップ</td></tr><tr><td>美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修(講師登壇)</td></tr><tr><td>PUTI PUTI LAND</td></tr><tr><td>学校連携ラボの設置</td></tr><tr><td>はみ出す力 30 展への出展</td></tr><tr><td>美術館新聞部プロジェクト</td></tr><tr><td>朝鑑賞に学ぶファシリテーター研修</td></tr></table>		年度	活動内容	R3	学校連携プロジェクトチーム全体会議	大きな絵プロジェクト	小中高同じテーマで作品づくりプロジェクト	美術館新聞部プロジェクト	R4	学校連携プロジェクトチーム全体会議	小中校合同鑑賞会	美術館新聞部プロジェクト	はみ出す力展 vol. 4—図工・美術の授業展 2022 への出展	令和 4 年度 第 1 回総合教育会議	R5	学校連携プロジェクトチーム全体会議	展覧会「美しい HUG！」タノタイガによる小学校出張ワークショップ	美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修(講師登壇)	PUTI PUTI LAND	学校連携ラボの設置	はみ出す力 30 展への出展	美術館新聞部プロジェクト	朝鑑賞に学ぶファシリテーター研修
年度	活動内容																							
R3	学校連携プロジェクトチーム全体会議																							
	大きな絵プロジェクト																							
	小中高同じテーマで作品づくりプロジェクト																							
	美術館新聞部プロジェクト																							
R4	学校連携プロジェクトチーム全体会議																							
	小中校合同鑑賞会																							
	美術館新聞部プロジェクト																							
	はみ出す力展 vol. 4—図工・美術の授業展 2022 への出展																							
	令和 4 年度 第 1 回総合教育会議																							
R5	学校連携プロジェクトチーム全体会議																							
	展覧会「美しい HUG！」タノタイガによる小学校出張ワークショップ																							
	美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修(講師登壇)																							
	PUTI PUTI LAND																							
	学校連携ラボの設置																							
	はみ出す力 30 展への出展																							
	美術館新聞部プロジェクト																							
	朝鑑賞に学ぶファシリテーター研修																							

2 大学・高専連携プロジェクト

年度	内容
R3	1 アートの魅力発見・共有事業 アートは難しくない！ 私なりの八戸アートの楽しみ方 八戸とアートはつながる！ 私なりの八戸アート企画会議 私たちがつくる！ 八戸アート発表会
	2 アート教育指導者育成事業
	3 プレオープンイベント事業 開館まで待てない！ みんなでチャレンジ 88 日!! オリジナルカウンターボールをつくろう☆
	4 三校連携「アート×〇〇」講座事業(アート×子ども、アート×食、アート×縄文)
	1 三校連携創作体験ワークショップ 「11 ぴきのねこマラソン大会」ジャイアントぬりえ 「11 ぴきのねことぶた」に出てくる、ぶたくんのいえをつくろう！ きえちやう写真を撮ろう～うごく世界ととまった世界～ みんなで創る写真の音楽 とばして まわして 遊ぼう！ 1Park(わんぱーく) SDGs×LEGO－わたしたちの未来－ ハチビ×是川縄文ジャック 科学工作！ 光通信機をつくろう
	2 学生×社会人のアートの学び実践講座事業 ジャイアントルーム開拓団
	3 美術館のアクセシビリティ向上事業 託児サービス
R5	1 三校連携創作体験ワークショップ 認知症世界の歩き方～認知症の方が生きている世界を旅してみよう～ ダンボール工作でオリジナルの人形とブロックを作って遊ぼう！ ブリリアント・ミネラル 英語で手作りクリスマスクラフト 僕の私の小さな家づくり
	2 学生×社会人のアートの学び実践講座事業 第1回「国の紹介と地球環境を守る取り組みについて」 第2回「伝統文化とアート“和菓子”をつくろう！」 第3回「地域と世界をつなぐサステナブルな未来へ」
	3 美術館のアクセシビリティ向上事業 託児サービス ベビーファーストデー

アウトプット
指標

1 学校連携プロジェクト

■学校連携プロジェクトチーム活動数・参加者数

年度	実績
R3	会議 3回
	小学校教員7人、中学校教員5人、高等学校教員2人、専門家1人、学芸員2人
R4	会議 3回
	小学校教員9人、中学校教員6人、高等学校教員3人、専門家1人、学芸員2人
R5	会議 3回
	小学校教員9人、中学校教員5人、高等学校教員3人、専門家1人、学芸員2人

■教育機関連携数

年度	内容	実績
R3	大きな絵プロジェクト	小学校2校、中学校3校、高校1校
	小中高同じテーマで作品づくりプロジェクト	小学校2、中学校3、高校1校
	美術館新聞部プロジェクト	小学校1校、高校1校
R4	小中校合同鑑賞会	小学校2校、中学校1校、高校1校
	美術館新聞部プロジェクト	小学校1校、中学校1校、高校1校
	令和4年度 第1回総合教育会議	小学校1校
R5	美術館新聞部プロジェクト	小学校1校、高校1校
	PUTI PUTI LAND	中学校2校

■参加者数

年度	内容	実績	
R3	大きな絵プロジェクト	195 人	
	小中高同じテーマで作品づくりプロジェクト	67 人	
	美術館新聞部プロジェクト	7 人	
R4	小中校合同鑑賞会	17 人	
	美術館新聞部プロジェクト	11 人	
	令和4年度 第1回総合教育会議	50 人	
R5	展覧会「美しい HUG！」タノタイガによる小学校出張ワークショップ	98 人	
	PUTI PUTI LAND	ボランティア	50 人
		ワークショップ参加	150 人
	朝鑑賞に学ぶファシリテーター研修	40人	
美術館新聞部プロジェクト	13 人		

■社会科見学・遠足受入数

	R3	R4	R5
学校数	22 校	23 校	25 校
児童数	661 人	843 人	649 人
引率者	84 人	76 人	103 人
合計	745 人	919 人	752 人

2 大学・高専連携プロジェクト

■アートの学び事業プログラム数

	R3	R4	R5
プログラム数	8	10	10

■教育機関連携数

	R3	R4	R5
教育機関数	3校	3校	3校

■参加者数

年度	内容	実績
R3	1 アートの魅力発見・共有事業	
	アートは難しくない！ 私なりの八戸アートの楽しみ方	18 人
	八戸とアートはつながる！ 私なりの八戸アート企画会議	15 人
	私たちがつくる！ 八戸アート発表会	3 人
	2 アート教育指導者育成事業	12 人
	3 プレオープンイベント事業 開館まで待てない！ みんなでチャレンジ 88 日!! オリジナルカウンターボールをつくろう☆	27 人
	4 三校連携「アート×〇〇」講座事業(アート×子ども、アート×食、アート×縄文)	—
R4	1 三校連携創作体験ワークショップ	
	「11 ぴきのねこマラソン大会」ジャイアントぬりえ	—
	「11 ぴきのねことぶた」に出てくる、ぶたくんのいえをつくろう！	18 人
	きえちゃん写真を撮ろう～うごく世界ととまった世界～	40 人
	みんなで創る写真の音楽	14 人
	とぼして まわして 遊ぼう！ 1Park(わんぱーく)	60 人
	SDGs×LEGOーわたしたちの未来ー	19 人
	ハチビ×是川縄文ジャック	20 人
	科学工作！ 光通信機をつくろう	12 人
	2 学生×社会人のアートの学び実践講座事業	
	ジャイアントルーム開拓団	25 人
	3 美術館のアクセシビリティ向上事業	

	R5	託児サービス	60 人
		1 三校連携創作体験ワークショップ	
		認知症世界の歩き方～認知症の方が生きている世界を旅してみよう～	12 人
		ダンボール工作でオリジナルの人形とブロックを作って遊ぼう！	22 人
		ブリリアント・ミネラル	9 人
		英語で手作りクリスマスクラフト	20 人
		僕の私の小さな家づくり	18 人
		2 学生×社会人のアートの学び実践講座事業	
		第 1 回「国の紹介と地球環境を守る取り組みについて」	18 人
		第2回「伝統文化とアート“和菓子”をつくろう！」	19 人
		第3回「地域と世界をつなぐサステナブルな未来へ」	42 人
		3 美術館のアクセシビリティ向上事業	
		託児サービス	50 人
		ベビーファーストデー	44 人
プロセス評価	【大学・高専連携プロジェクト】 ・貸館やイベントの予約などで、ワークショップを行う部屋が足りなくなり、確保に苦労したため、事前に事業内容や使用する部屋などを想定して準備しておくべきだった。		
アウトカム 評価	■活動によって起きた変化 【学校連携プロジェクト】 ・豊崎小学校教員によると、中学生や高校生と一緒に活動したことが刺激になって、図工が大好きになった参加児童がいたとの感想があった。 ・城北小学校から社会科見学の訪問先として相談を受けたり、八戸工業高校美術部の美術館見学の相談を受けたりするなど、教員と美術館との距離感が近くなり、学校教育の場として美術館を活用するようになった。 ・教員からは、仕事のモチベーションが上がった、授業づくりや指導のヒントを得た、異なる校種の先生との出会いや人脈が広がったとの感想があった。 ・授業開始前に美術作品の鑑賞を通して教員と児童生徒が対話をする「朝鑑賞」に取り組もうと、島守中学校教員が「朝鑑賞」のファシリテーター研修を行った。 【大学・高専連携プロジェクト】 ・三校連携創作体験ワークショップへの参加を通じて、児童や保護者が大学や高専が持つ専門性に触れることができた。 ・「僕の私の小さな家づくり」のアンケート調査(n=14)では、「非常によかった」が 78.6%(11 人)、「よかった」が 21.4%(3 人)であり、満足度は 100%であった。また、参加児童の保護者からは、「考える力が身につく場になった。将来どのような職業につくかいい判断材料になった」、「建築家になりたい夢があるので憧れが強くなったようです」などの感想があった。		

	■今後起きそうな変化 【学校連携プロジェクト】 ・児童・生徒が美術館を身近な施設として気軽に訪れるようになる。 ・「朝鑑賞」を行う学校が増え、市内学校にも徐々に広まる。 ・美術館を活用した授業の相談が増える。 【大学・高専連携プロジェクト】 ・大学・高専と美術館の連携が深まり、新たな企画が生まれる。 ・生徒・学生が美術館を身近な施設として気軽に訪れるようになる。 ■中間・最終アウトカムを達成するために今後必要なこと 【学校連携プロジェクト】 ・学校連携プロジェクトチームの活動拠点である学校連携ラボの更なる活用。 ・美術館に来て、作品や活動に触れてもらえるよう、全小学校教育の招待。 【大学・高専連携プロジェクト】 ・大学や高専が有する専門性と美術館が有するアートの専門性の融合による「アートの学び」の活発化による新たな取り組み。 ・子育て世代、障がい者など、美術館のアクセシビリティの更なる向上。
--	--

3 アートファーマープロジェクト

事業区分	アートファーマープロジェクト																																																											
事業の特徴	八戸市美術館では、美術を鑑賞するだけでなく、アートを介した様々な体験を通して、地域コミュニティを耕し、育む人のことを「アートファーマー」と呼び、様々なプロジェクトを実施する。																																																											
実施した活動	<table><tr><th>年度</th><th>内容</th></tr><tr><td rowspan="3">R3</td><td>建築ツアーガイド(R3～)</td></tr><tr><td>向井山朋子パフォーマンス「gift」</td></tr><tr><td>かだるアート 浮世絵編</td></tr><tr><td rowspan="2">R4</td><td>リヤカーメラプロジェクト</td></tr><tr><td>きむらとしろうじんじん八戸野点 2022</td></tr><tr><td rowspan="5">R5</td><td>タノミマスプロジェクト</td></tr><tr><td>きむらとしろうじんじん八戸野点 2023</td></tr><tr><td>あそらぼ！創作パズル・ゲーム展</td></tr><tr><td>MEETIUM</td></tr><tr><td>アートファーマーミーティング</td></tr></table>				年度	内容	R3	建築ツアーガイド(R3～)	向井山朋子パフォーマンス「gift」	かだるアート 浮世絵編	R4	リヤカーメラプロジェクト	きむらとしろうじんじん八戸野点 2022	R5	タノミマスプロジェクト	きむらとしろうじんじん八戸野点 2023	あそらぼ！創作パズル・ゲーム展	MEETIUM	アートファーマーミーティング																																									
年度	内容																																																											
R3	建築ツアーガイド(R3～)																																																											
	向井山朋子パフォーマンス「gift」																																																											
	かだるアート 浮世絵編																																																											
R4	リヤカーメラプロジェクト																																																											
	きむらとしろうじんじん八戸野点 2022																																																											
R5	タノミマスプロジェクト																																																											
	きむらとしろうじんじん八戸野点 2023																																																											
	あそらぼ！創作パズル・ゲーム展																																																											
	MEETIUM																																																											
	アートファーマーミーティング																																																											
アウトプット 指標	■建築ツアーガイド <table><tr><th>年度</th><th>登録者数</th><th>活動数</th></tr><tr><td>R3</td><td>10 人</td><td>8回</td></tr><tr><td>R4</td><td>16 人</td><td>17 回</td></tr><tr><td>R5</td><td>19 人</td><td>17 回</td></tr></table> ■アートファーマープロジェクト実績 <table><tr><th>年度</th><th>内容</th><th>参加者数</th><th>アートファーマー参加者</th><th>活動回数</th></tr><tr><td>R3</td><td>かだるアート浮世絵編</td><td>25 人</td><td></td><td>3 回</td></tr><tr><td rowspan="2">R4</td><td>リアカーメラ</td><td>203 人</td><td>11 人</td><td>9 回</td></tr><tr><td>野点 2022</td><td>140 人</td><td>のべ 94 人</td><td>7回</td></tr><tr><td rowspan="6">R5</td><td>タノミマス</td><td></td><td>27 人</td><td></td></tr><tr><td>野点 2023</td><td></td><td>41 人</td><td></td></tr><tr><td>手話通訳ガイドツアー</td><td>20 人</td><td></td><td>2回</td></tr><tr><td>あそらぼ 2023</td><td>来館者 5,907 人</td><td>12 人</td><td></td></tr><tr><td>MEETIUM</td><td>17 人</td><td>4 人</td><td>1 回</td></tr><tr><td>アートファーマーミーティング</td><td>13 人</td><td>17 人</td><td>1 回</td></tr></table>				年度	登録者数	活動数	R3	10 人	8回	R4	16 人	17 回	R5	19 人	17 回	年度	内容	参加者数	アートファーマー参加者	活動回数	R3	かだるアート浮世絵編	25 人		3 回	R4	リアカーメラ	203 人	11 人	9 回	野点 2022	140 人	のべ 94 人	7回	R5	タノミマス		27 人		野点 2023		41 人		手話通訳ガイドツアー	20 人		2回	あそらぼ 2023	来館者 5,907 人	12 人		MEETIUM	17 人	4 人	1 回	アートファーマーミーティング	13 人	17 人	1 回
年度	登録者数	活動数																																																										
R3	10 人	8回																																																										
R4	16 人	17 回																																																										
R5	19 人	17 回																																																										
年度	内容	参加者数	アートファーマー参加者	活動回数																																																								
R3	かだるアート浮世絵編	25 人		3 回																																																								
R4	リアカーメラ	203 人	11 人	9 回																																																								
	野点 2022	140 人	のべ 94 人	7回																																																								
R5	タノミマス		27 人																																																									
	野点 2023		41 人																																																									
	手話通訳ガイドツアー	20 人		2回																																																								
	あそらぼ 2023	来館者 5,907 人	12 人																																																									
	MEETIUM	17 人	4 人	1 回																																																								
	アートファーマーミーティング	13 人	17 人	1 回																																																								

プロセス評価	■建築ツアーガイド ・新規参加者が増えるような広報の方法を検討していきたい。 ・卒業制度はないが、初期のメンバーでほとんど活動していない人もいるため、年に1度は継続の意向確認を行うことも検討したい。 ・子育てや介護をしている人も活動に参加しやすいように、平日の日中や託児サービスのある日に活動日を設定するなど、活動日を自由に選択できるようにすることも検討したい。 ・建築ツアーに参加してくれた人にどのような変化が起きたのかを計測する方法や、活動のアーカイブ方法を検討したい。 ■その他 ・アートファーマーが自主的に企画・発信できるような制度を検討しているが、対応するスタッフの人手不足が課題である。
アウトカム評価	■アートファーマーへのアンケート調査 令和6年3月にアートファーマーへのアンケート調査(n=19)を行ったところ、「地域に対する新たな発見があった」と回答したのは89.5%(17人)、「創造力を刺激されるような体験があった」と回答したのは94.8%(18人)、「能動的な学びの機会となった」と回答したのは100%(19人)、「プロジェクトに参加することで、自身にとってよい変化があった」と回答したのは100%(19人)であった。また、「アートファーマープロジェクトはあなたにとってどのようなものか」という質問に対しては、「新たな価値観を学ぶ機会」、「家や会社とは別の『もう1つの居場所』」、「市民同士のコミュニティを形成することができるプロジェクト」などの意見があった。 ■活動によって起きた変化 ・アーティストや仲間と一緒に創作活動を行うことで、アートの多様性への理解が進み、世代を超えた人とのつながりが生まれている。アートファーマーからは、「美術館に来館する人や八戸を訪れる人たちへのおもてなしの心を持つようになった」や「地域に積極的に関わる、知る、学ぶ、共有するようになった」、「アートと地域で何ができるのか、自分ができる小さなことを考えたりやってみたりするようになった」などの感想があり、行動や気持ちの変化が生じている。 ・「建築ツアーガイド」で活躍する市内の高校生が、八戸市美術館をテーマにいろんな世代の考えを共有しながら、よりよい八戸にするための「企画書」を作成するワークショップ「MEETIUM」を開催するなど、能動的な活動につながった。 ■今後起きそうな変化 ・創造性が育まれ、自ら何かを生み出したいという気持ちが高まり、美術館への持ち込み企画が増えるほか、自ら企画を考えて実行するなど、美術館を活用した自己表現につながる。 ・世代を超えた人のつながりができ、美術館を日常的な活動場所や居場所として活用するようになる。 ■中間・最終アウトカムを達成するために今後必要なこと ・より多くのアートファーマーに参加してもらうため、これまであまり関わりあいのなかった分野(福祉・農林水産業など)と連携したプロジェクトの検討。 ・アートファーマーが自主的に企画・発信できるような仕組み。 ・地域活動を行う多様な主体のつながりづくり。

その他の活動の評価

八戸市美術館の主な事業以外の活動については下表のとおりである。

活動内容	実績	
コレクション (収集・管理)	1 収集	
	年度	内容
	R3	八戸市美術館美術品等収集委員会(1回)
	R4	八戸市美術館美術品等収集委員会(1回)
		新規収蔵作品 23 点ほか
	R5	新規収蔵作品 18 点ほか
	2 管理	
	年度	内容
	R3	収蔵品修復 18 点
		収蔵品撮影 デジタル撮影 17 点、フィルム撮影 10 点
	R4	収蔵品修復 9 点
		収蔵品撮影 デジタル撮影 100 点、フィルム撮影 100 点
	R5	収蔵品修復 18 点
		収蔵品撮影 99 点
	■達成度	
・計画通り実施できた。		
■次期に向けての改善提案		
・虫菌害対策として、関係者全員の問題意識共有の場を設けるほか、特別清掃強化などのソフト面の取組を強化する。		
■今後の課題		
・購入による作品収集をしていないため、コレクションの体系化を積極的に進められていない。		

販わい創出事業／イベント

年度	内容	実績
R3	美術館のプロローグ	
R4	ゴールデン・ジャイアント・ウィーク	プログラム数 10回
	ジャイアントサマー	プログラム数 5回
	開館 1 周年！ 美術館の誕生日	プログラム数 3回
	あそらぼ 2022～高橋みのるのゲームとからくりおもちゃ展	プログラム数 3回
R5	ゴールデンウィークイベント	プログラム数 2回
	美術館の夏休み 2023	プログラム数 7回
	ヨルニワ	開催数 2回
	音楽のタベ	開催数 1回
	現代八幡馬展～いまを駆ける～	開催日数 5日
	えんぶり公演	開催数 1回
	キッチンカー出店	平日中心に不定期

■達成度

・計画通り実施できた。

■今後の課題

・来館数の増加や中心街の回遊性向上などの相乗効果が得られるように、近隣の観光スポットや、八戸ポータルミュージアムや八戸ブックセンターなどの中心街にある文化観光施設と積極的に連携を強化するほか、子ども向けのイベントを行うことで、幼少期から美術館に慣れ親しんでもらえるような取組を行う必要がある。

・展示替えなどで観覧できる展示がない閑散期などに、イベントを計画するなど、新たな利用者の獲得や美術館の利用促進を図る必要がある。

連携／共催事業

年度	内容	入館者数
R4	帆風美術館×八戸市美術館共催「新春屏風展」	6,883 人
R5	新春屏風展 ～デジタル光筆画で見る屏風の世界～	5,035 人
	第 60 回八戸市中学校生徒美術展	1,415 人
	第 56 回八戸市小学校図画工作展	4,683 人
	【特別貸館】藤井フミヤ展 Fumiyart2024	12,681 人

■達成度

・計画通り実施できた。

■今後の課題

・スケジュールに沿って円滑に運営するため、早い段階から主催団体に働きかけ、情報収集や連絡調整を行う必要がある。

貸館	<table border="1" data-bbox="416 241 1289 687"> <tr> <th>年度</th><th>内容</th></tr> <tr> <td rowspan="2">R3</td><td>一般貸館 2件</td></tr> <tr> <td>貸館説明会 3回</td></tr> <tr> <td rowspan="3">R4</td><td>特別貸館 2件</td></tr> <tr> <td>一般貸館 54 件</td></tr> <tr> <td>貸館説明会 2回</td></tr> <tr> <td rowspan="3">R5</td><td>特別貸館 1件</td></tr> <tr> <td>一般貸館 111件</td></tr> <tr> <td>貸館説明会 2回</td></tr> </table> ■達成度 ・計画通り実施できた。 ■次期に向けての改善提案 ・市民が貸出施設を活用しやすいよう、空き状況などを HP や SNS を活用して周知する。	年度	内容	R3	一般貸館 2件	貸館説明会 3回	R4	特別貸館 2件	一般貸館 54 件	貸館説明会 2回	R5	特別貸館 1件	一般貸館 111件	貸館説明会 2回			
年度	内容																
R3	一般貸館 2件																
	貸館説明会 3回																
R4	特別貸館 2件																
	一般貸館 54 件																
	貸館説明会 2回																
R5	特別貸館 1件																
	一般貸館 111件																
	貸館説明会 2回																
その他事業	1 5館連携プロジェクト AOMORI GOKAN <table border="1" data-bbox="416 1155 1299 1352"> <tr> <th>年度</th><th>内容</th></tr> <tr> <td>R3</td><td>情報発信、建築ツアー、トークイベント</td></tr> <tr> <td>R4</td><td>情報発信、アートフェス実行委員会設立</td></tr> <tr> <td>R5</td><td>情報発信</td></tr> </table> 2 はちとまネットワーク <table border="1" data-bbox="416 1449 1299 1646"> <tr> <th>年度</th><th>内容</th></tr> <tr> <td>R3</td><td>会議開催 1回</td></tr> <tr> <td>R4</td><td>会議開催 1回</td></tr> <tr> <td>R5</td><td>会議開催 1回</td></tr> </table> ■達成度 ・計画通り実施できた。 ■今後の課題 ・AOMORI GOKAN アートフェス 2024 は終了したが、一過性のものに終わらせないよう、青森アートミュージアム5館連携協議会の枠組みを活かした取組を継続する必要がある。	年度	内容	R3	情報発信、建築ツアー、トークイベント	R4	情報発信、アートフェス実行委員会設立	R5	情報発信	年度	内容	R3	会議開催 1回	R4	会議開催 1回	R5	会議開催 1回
年度	内容																
R3	情報発信、建築ツアー、トークイベント																
R4	情報発信、アートフェス実行委員会設立																
R5	情報発信																
年度	内容																
R3	会議開催 1回																
R4	会議開催 1回																
R5	会議開催 1回																

広報	1 メディア露出回数			
		R3	R4	R5
	雑誌	40 回	37 回	38 回
	新聞	34 回	82 回	20 回
	ラジオ	2 回	16 回	8 回
	Web	23 回	33 回	38 回
	テレビ	3 回	11 回	22 回
	その他	16 回	9 回	46 回
	2 ウェブアクセス・SNS フォロアー数			
		R3	R4	R5
施設管理	ウェブアクセス	72,758 回	158,711 回	158,880 回
	X(旧 TWITTER)	—	3,034 人	3,498 人
	Facebook	—	1,109 人	1,321 人
	YouTube	—	161 人	192 人
	Instagram	—	2,909 人	3,910 人
	■達成度 ・計画通り実施できた。 ■次期に向けての改善提案 ・県内の美術館に比べて、SNS のフォロワー数が少ないことから、展覧会やプロジェクトなどの情報を開催前、開催中に計画的に発信する。			
	施設運営費の状況			
	(単位:千円)			
		R3	R4	R5
支出	人に係る経費	93,553	96,436	106,791
	企画運営費	36,877	72,012	57,799
	施設の維持管理費	108,921	140,408	152,699
	うち、光熱水費	27,211	36,270	35,018
	うち、委託料	68,091	92,553	104,049
	合計	239,351	308,856	317,289
収入(財源)	使用料	11,722	14,590	8,926
	その他	8,402	13,926	5,172
	一般財源	219,227	280,340	303,191
	合計	239,351	308,856	317,289

	■達成度 ・計画通り実施できた。 ■今後の課題 ・持続可能な施設運営のため、維持管理業務委託の仕様見直しや節電による光熱水費の削減のほか、魅力的な展覧会の開催による観覧料収入増や企画に連動した国庫補助金などの財源確保にも取り組む必要がある。
--	--

総合評価と今後の展望

1 ユニークな取組の構想・実施に対する評価

八戸市美術館は、アートを通じた出会いが人を育み、人の成長がまちを創る「出会いと学びのアートファーム」をコンセプトとして、令和3年 11 月にリニューアルオープンした。従来の「もの」としての美術品展示が中心だった美術館とは異なり、「ひと」が活動する空間を大きく確保することで、「もの」や「こと」を生み出す新しいかたちの美術館として、新たな文化創造と八戸市全体の活性化を図ることを目指した。

そのために、他の美術館には見られない、次のようなユニークな事業に着手した（詳細については他の資料を参照されたい）。

- ① 展覧会開催時に関連のプロジェクトを実施することで多様な市民の参加を促す取組（展覧会＋プロジェクト、展覧会関連プログラム）
- ② 地域の学校などと連携して事業を行うことで美術館の機能を拡大させる取組（学校連携プロジェクト、大学・高専連携プロジェクト）
- ③ 市民ボランティアによるプロジェクトの企画運営を実現させる取組（アートファーマープロジェクト）
- ④ 美術館とは縁がなかった市民に美術館を身近に感じさせる取組（賑わい創出事業）

以上は、現時点では試行錯誤の段階ではあるものの、八戸市美術館ならではの取組として大きく発展することが期待されるものである。これらの多くの事業にリニューアルオープン後3年のうちに構想・着手し、実績を重ねることができたことは、重要な成果だと評価できる。

2 中期運営計画の達成度評価

(1) 中間アウトカムに対する達成状況

中期運営計画（令和2年 3 月）で定めた中間アウトカムに対する達成状況について、下表のように、「達成できている」「概ね達成できている」「やや達成できている」「あまり達成できていない」「ほとんど達成できていない」の5段階で評価した。

中間アウトカム	評価
■アートを通じた学びの拠点をつくる ・市民が多様な考え方や価値観を認め合うことができる	概ね達成できている
【評価理由】 展覧会＋プロジェクトでは、工夫を凝らした収蔵品展を実施したほか、ジャイアントルームなど当館の特徴的な機能を活かしながら、様々なアプローチで新たな視点から企画運営に取り組んだ。展覧会毎に実施したアンケート調査では、いずれの展覧会も7割から9割と観覧者から高い満足度を得ることができており、八戸地域のアーティストや文化芸術の理解促進につながっている。また、アートファーマープロジェクトには様々な参加者が集まり、活動を通じた関係性を深めている。	

その一方で、観覧者が少ない展覧会があったほか、展示のコンセプトや内容に対して不満を持つ観覧者がいたことから、観覧者の満足度向上と合わせて、企画の意図をより深く理解してもらうなど、不満を減らすための取組も今後の課題である。また、展覧会関連プログラムの募集開始が遅れてしまうなど、周知する機会を逸してしまったことから事前に広報計画を立てて遂行する必要がある。

以上のことから、展覧会やプロジェクトによって「アートを通じた学びの拠点をつくる」ことや、「市民が多様な考え方や価値観を認め合うことができる」ことは達成できているものの、一部の観覧者(市民)からの不満も存在することから、「概ね達成できている」と評価できる。

中間アウトカム	評価
■新しい活動や価値が生まれる土壌をつくる ・企業や団体との協働により「アートのまち」が実現する ・他者と出会い、何かすることが面白いと思うようになる ・自分の考えや感覚を表現できるようになる	概ね達成できている
【評価理由】 美術団体・関係団体などの共創パートナーと連携した共創企画の実施により、「アートのまち」づくりにつながっている。その一方で、共創企画を行う共創パートナーが限られているため、幅広く共創パートナーを募る必要がある。 また、学校連携プロジェクトでは、学校教員と美術館職員のつながりが深まっており、授業での美術館の活用が進み、教員の発意による朝鑑賞に関するファシリテーター研修を行う学校が出てくるなどしている。一方、大学・高専連携プロジェクトでは、美術館の専門性と大学・高専が持つ専門性を活かした多様なワークショップにおいて創作活動を通じて児童の想像力や創造力が養われるなど、アートの価値観や多様性の理解につながっている。 ほかにも、アートファーマープロジェクトでは、参加者の自主的な活動も生まれはじめており、美術館を活用した自己表現が見られている。 以上のことから、様々なプロジェクトによって「新しい活動や価値が生まれる土壌をつくる」ことは達成できているものの、そこに関わる共創パートナー・アートファーマー(市民)が限られていることから、「概ね達成できている」と評価できる。	

中間アウトカム	評価
■クリエイティブ人材が集まる環境をつくる ・創造性を刺激する環境ができる	概ね達成できている
【評価理由】 アートファーマープロジェクトでは、アートファーマーの活動環境の整備に努めた結果、アーティストと一緒に創作活動を行ったり、世代を超えた人のつながりができている。アンケート調査では、「創造性を刺激されるような体験があった」と回答した参加者は9割を超えており、創造性を刺激する環境づくりにつながっている。 その一方で、初期参加者の中にはほとんど活動していない人がいるなど、新規参加者が増えるような広報の方法や参加しやすい仕組みを検討する必要がある。また、アートファーマーが自主的に企	

画・発信できるような仕組みの整備を検討する必要がある。

以上のことから、アートファーマープロジェクトによって「クリエイティブ人材が集まる環境をつくる」ことは達成できているものの、そこに限られるアートファーマー(市民)に限られていることと、自主的な活動を活発化させる仕組みが十分ではないことから、「概ね達成できている」と評価できる。

(2)総合評価

リニューアルオープン後に実施してきた各事業によって、中期運営計画で定めた中間アウトカムは、いずれも「概ね達成できている」と評価できた。

展覧会＋プロジェクトでは、ジャイアントルームなど当館の特徴的な機能を活かしながら、様々なアプローチで新たな視点から企画運営に取り組んだ結果、観覧者からの高い満足度を得ることができた。また、展覧会と並行して行われるアートファーマープロジェクトでも、活動環境の整備や、アーティストとの創作活動を実施した結果、様々な参加者が集まり、世代を超えた人のつながりや、美術館を活用した自己表現が生まれはじめている。今後は、それらの事業の企画意図に対して、より深い市民の理解を得るための試みが必要とされることが考えられる。

さらに、共創パートナーとの共創企画や学校連携プロジェクト、大学・高専連携プロジェクトによって、美術団体や関係団体、学校教員、児童・生徒・学生などの市民との共創を生み出し、地域の資源を活用する取組を実施することができた。一方で、それらの事業とアートファーマープロジェクトにおいては、今後はより一層、関係する市民の拡大につとめるための試みが必要とされることが考えられる。

3 今後の展望について

(1)事業活動の課題

○魅力的な展覧会などの実施

多様なジャンルの展覧会の開催、音楽や食文化などアート以外の分野との連携、当館独自のジャイアントルームの機能を活かした企画を通じて芸術鑑賞の幅を広げることで、観覧者の満足度向上と合わせて、美術に関心がない層へのアプローチを検討する必要がある。

○プロジェクトの常設展示・コレクション化

一過性の性質を持つプロジェクトへの市民の理解を深めるために、常に人の活動が見えるわけではないプロジェクトで制作した「もの」を写真や映像などで再演・再現するためのアーカイブや、アーティストが関与したプロジェクトで制作した作品のコレクション化が必要である。

○学校連携プロジェクトのさらなる推進

学校連携ラボの活発化や、児童・生徒が美術館に来て作品や活動に触れてもらえるよう、来館機会を増やすためのアプローチ方法の検討が必要である。

○大学・高専連携プロジェクトのさらなる推進

大学や高専が有する専門性と美術館が有するアートの専門性の融合による「アートの学び」の活発化による新たな取組や、子育て世代や障がい者などに対する美術館のアクセシビリティの更なる向上が必要である。

○アートファーマーを中心とした、市民発の多様な芸術活動の創出に向けた仕組みの構築

アートファーマーが自主的に企画・発信できるような仕組みの整備を検討する必要がある。

○戦略的な広報

展覧会やプロジェクトの開催、アートファーマーや共創パートナーの募集など、事前に広報計画を立てるほか、広報の方法やターゲットについて検討する必要がある。

(2)評価の課題

今期中期運営計画は八戸市美術館がリニューアルオープン前に策定したこともあり、アクティビティやアウトプット、中間・最終アウトカムが抽象的な内容であったほか、直接アウトカムが設定されていなかったことから、職員のワークショップで作成したロジックモデルを当てはめることで、具体的なアウトカムを把握することができ、また、アウトカムを測定するために適切な評価指標の見通しが立った。

次期中期運営計画の策定においては、すべての基本となるビジョン「種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館 ～出会いと学びのアートファーム～」は踏襲するものの、ミッション(最終アウトカム)については、より具体的な内容となるように再検討を行い、ロジックモデルをあらためて構築していく必要がある。また、新たなロジックモデルに合わせて、評価指標や測定方法(アンケート設問)についても見直しを行うこととする。

八戸市美術館中期運営計画(2期目)の策定について

令和7年3月で中期運営計画(1期目)が終了することから、中期運営計画(第2期)を今年度内に策定する。なお、次期中期運営計画策定にあたっては、今回の事業評価の結果を踏まえて、より効果的かつ効率的な計画となるよう見直しを行うものとする。

1 中期運営計画(2期目)の方向性

(1)ビジョン

「種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館 ～出会いと学びのアートファーム～」
※「八戸市新美術館管理運営基本計画」(平成31年1月策定)で掲げたビジョンを踏襲する。

(2)計画期間

令和7年度～令和11年度(5年間)
※中長期アウトカムの発現には一定の時間を要することを踏まえ、計画期間を5年間とする。

(3)戦略目標及びミッション

これまでの美術館運営を踏まえた、より具体的な戦略目標とミッションを定める。

(4)取組内容

これまで行ってきた活動や不足している活動など、具体的な取組内容を定める。

(5)事業評価の手法と評価指標

- ・最終アウトカム、中間アウトカムや直接アウトカムの指標を設定し、主要な活動についてプロセス評価とアウトカム評価を行うことを定める。
- ・アウトカムに関する定量的・定性的データ(アンケート項目の工夫、参加者の証言記録など)の設定や収集方法について定める。
- ・事業及び評価計画の妥当性をロジックモデルを用いてセオリー評価する。また、評価指標や評価データの設定や収集方法の妥当性についても検証する。これらの結果を踏まえ、継続性を考慮しつつ、必要に応じて改善を行う。

2 今後のスケジュール

- | | |
|----------|---|
| 令和6年11月～ | 中期運営計画(2期目)(案)作成
事業評価報告書の作成 |
| 令和7年3月頃 | 令和6年度第3回八戸市美術館運営協議会
・中期運営計画(2期目)(案)の提示 |

八戸市美術館開館 3 周年事業について

1. 企画概要

令和 3 年 11 月 3 日に開館した八戸市美術館は、今年で 3 周年の節目を迎えることから、この 3 年間を振り返るとともに、「アートのみちづくり」及び当館のビジョンをあらためて伝える機会として、展覧会とプロジェクトを両輪に展開してきた当館ならではの周年事業とする。

2. 企画概要

(1) 3 周年アーカイブ展

当館の映像・写真のテクニカルコーディネーター神智のアーカイブ展。

■日時：令和 6 年 11 月 1 日（金）～11 月 18 日（月）

■場所：ギャラリー 1・2（無料）

(2) 「虹の上をとぶ船」学芸員トーク&haruka nakamura ピアノ・インスタレーション」

10 月 12 日から開催中の「風の中を飛ぶ種子 青森の教育版画展」に関連する音楽イベントを開催し、3 周年を祝う機運を醸成するもの。

企画内容としては、学芸員による「虹の上をとぶ船」シリーズをはじめとした教育版画の物語を語るトークと、作品から想起される音楽を即興で奏でる、青森県出身の音楽家・haruka nakamura（はるか・なかむら）を招聘し、ピアノ・インスタレーションを展開する。

■日時：令和 6 年 11 月 9 日（土）19:30 開場、19:45 開演

■定員：50 名（要予約）※展覧会チケットをお持ちの方

haruka nakamura（はるか・なかむら）



- ・青森市出身
- ・OCN、ポカリスエットなどの CM 音楽のほか、NHK ドラマなどの音楽も手掛ける
- ・2022 年青森県立美術館「ミナペルホネン/皆川明 つづく」展において、音楽展示を担当。同展覧会のフィナーレを彩る公演として、即興によるピアノ演奏をアレコホールで実施

「はみ出す力展 vol. 6」 ～授業の展覧会 2024～

1 概要

「はみ出す力」をテーマに、各地の幼稚園・保育園、小・中学校、高等学校や大学などで行われた造形美術の授業実践を紹介する展覧会。

2 会期 令和7年1月23日（木）～1月26日（日）

3 会場 八戸市美術館 ギャラリー1、2

4 開館時間 10:00～19:00

5 観覧料 | 無料

6 主催・共催 主催 武蔵野線沿線美術教育実践学習会「び会」
共催 八戸市美術館

7 併催イベント

イベント名 ほろ酔い鑑賞「ほろハチ」@はみ出す力展

概要 ほろ酔い気分で作品鑑賞を楽しむ八戸市美術館オリジナル企画「ほろハチ」。
はみ出す力展にあわせて、全国の学校等で造形教育に携わる方々を対象に開催。

日時 1月25日（土）19時過ぎ頃～

対象 全国の幼稚園・保育園・小中学校・高校・特別支援学校・大学等の教職員、図工・美術教育に携わる方